

連結財務諸表

金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当行の連結貸借対照表、連結損益計算書及び連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表については、有限責任 あずさ監査法人の監査証明を受けております。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	平成22年度末 平成23年3月31日現在	平成23年度末 平成24年3月31日現在
(資産の部)		
現金預け金	9,077,443	7,600,074 ※ ⁸
コールローン及び買入手形	851,636	1,291,818 ※ ⁸
買現先勘定	131,104	227,749
債券貸借取引支払保証金	4,699,667	4,493,570
買入金銭債権	1,076,044	1,271,745 ※ ⁸
特定取引資産	6,590,920	8,101,100 ※ ^{2,8}
金銭の信託	19,326	17,763
有価証券	39,748,394	42,379,194 ※ ^{1,2,8,15}
貸出金	61,959,049	63,584,767 ※ ^{3,4,5,6,7,8,9}
外国為替	1,077,024	1,280,636 ※ ⁷
リース債権及びリース投資資産	114,560	143,978 ※ ⁸
その他資産	2,643,552	2,609,882 ※ ⁸
有形固定資産	828,698	849,074 ※ ^{10,11,12}
建物	265,159	277,428
土地	464,702	467,624
リース資産	10,737	10,326
建設仮勘定	4,355	12,364
その他の有形固定資産	83,743	81,330
無形固定資産	409,917	514,332
ソフトウェア	183,715	201,872
のれん	183,526	212,188
リース資産	398	328
その他の無形固定資産	42,277	99,941
繰延税金資産	568,966	340,592
支払承諾見返	3,862,442	4,412,973
貸倒引当金	△ 943,077	△ 867,653
資産の部合計	132,715,674	138,251,602

(単位：百万円)

科目	平成22年度末 平成23年3月31日現在	平成23年度末 平成24年3月31日現在
(負債の部)		
預金	82,153,464	84,328,991 ※8
譲渡性預金	8,423,123	8,784,438
コールマネー及び売渡手形	2,629,407	2,144,599 ※8
売現先勘定	726,365	1,676,902 ※8
債券貸借取引受入担保金	5,712,348	5,809,603 ※8
コマーシャル・ペーパー	337,120	1,193,249
特定取引負債	5,209,441	6,208,087 ※8
借入金	8,631,713	6,835,091 ※8,13
外国為替	256,160	302,580
短期社債	417,788	244,988
社債	3,783,297	4,540,708 ※14
信託勘定借	216,171	443,723
その他負債	3,238,158	3,539,191 ※8
賞与引当金	35,592	38,118
役員賞与引当金	2,001	2,419
退職給付引当金	17,383	23,766
役員退職慰労引当金	1,666	1,465
ポイント引当金	2,249	3,230
睡眠預金払戻損失引当金	9,923	10,980
利息返還損失引当金	2,600	336,956
特別法上の引当金	69	98
繰延税金負債	18,352	52,811
再評価に係る繰延税金負債	45,698	39,915 ※10
支払承諾	3,862,442	4,412,973 ※8
負債の部合計	125,732,541	130,974,895
(純資産の部)		
資本金	1,770,996	1,770,996
資本剰余金	2,717,397	2,717,397
利益剰余金	929,336	1,299,484
自己株式	—	△ 210,003
株主資本合計	5,417,730	5,577,875
その他有価証券評価差額金	239,717	286,413
繰延ヘッジ損益	△ 8,921	△ 30,674
土地再評価差額金	33,294	39,078 ※10
為替換算調整勘定	△ 119,696	△ 139,425
その他の包括利益累計額合計	144,394	155,391
新株予約権	91	94
少数株主持分	1,420,915	1,543,345
純資産の部合計	6,983,132	7,276,706
負債及び純資産の部合計	132,715,674	138,251,602

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	平成22年度	平成23年度
	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
経常収益	2,711,380	2,687,911
資金運用収益	1,485,778	1,503,442
貸出金利息	1,144,168	1,153,439
有価証券利息配当金	248,988	238,443
コールローン利息及び買入手形利息	9,303	14,741
買現先利息	2,351	5,890
債券貸借取引受入利息	8,429	6,788
預け金利息	18,439	29,512
リース受入利息	4,369	4,905
その他の受入利息	49,729	49,720
信託報酬	2,299	1,736
役務取引等収益	665,109	689,790
特定取引収益	212,920	178,791
その他業務収益	297,766	274,440
賃貸料収入	4,422	4,331
割賦売上高	7,512	14,094
その他の業務収益	285,830	256,014
その他経常収益	47,505	39,709
償却債権取立益		3,442
その他の経常収益		36,267 ※1
経常費用	1,960,171	1,829,992
資金調達費用	268,627	264,340
預金利息	107,821	102,133
譲渡性預金利息	31,721	32,528
コールマネー利息及び売渡手形利息	3,787	3,596
売現先利息	2,751	3,694
債券貸借取引支払利息	8,743	6,828
コマースナル・ペーパー利息	1,164	1,986
借用金利息	23,481	24,773
短期社債利息	564	417
社債利息	66,357	75,544
その他の支払利息	22,231	12,837
役務取引等費用	137,944	138,337
その他業務費用	143,012	64,269
賃貸原価	671	610
割賦原価	7,066	6,991
その他の業務費用	135,274	56,667
営業経費	1,094,576	1,142,170 ※2
その他経常費用	316,011	220,874
貸倒引当金繰入額	42,427	13,411
その他の経常費用	273,583	207,462 ※3
経常利益	751,208	857,919
特別利益	3,564	27,788
固定資産処分益	882	2,738
負ののれん発生益	100	—
償却債権取立益	1,594	—
金融商品取引責任準備金取崩額	—	—
その他の特別利益	987	25,050 ※4
特別損失	11,893	8,398
固定資産処分損	3,998	4,880
減損損失	5,272	3,488 ※5
金融商品取引責任準備金繰入額	34	29
その他の特別損失	2,588	—
税金等調整前当期純利益	742,878	877,310
法人税、住民税及び事業税	59,719	63,156
法人税等調整額	150,503	190,576
法人税等合計	210,222	253,732
少数株主損益調整前当期純利益	532,656	623,577
少数株主利益	81,823	89,760
当期純利益	450,832	533,816

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科目	平成22年度	平成23年度
	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
少数株主損益調整前当期純利益	532,656	623,577
その他の包括利益	△ 168,966	9,312 *1
その他有価証券評価差額金	△ 150,926	53,988
繰延ヘッジ損益	29,408	△ 21,897
土地再評価差額金	—	5,613
為替換算調整勘定	△ 59,493	△ 23,912
持分法適用会社に対する持分相当額	12,044	△ 4,479
包括利益	363,689	632,889
親会社株主に係る包括利益	322,474	544,544
少数株主に係る包括利益	41,215	88,345

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	平成22年度 自平成22年4月1日 至平成23年3月31日	平成23年度 自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
株主資本		
資本金		
当期首残高	1,770,996	1,770,996
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	1,770,996	1,770,996
資本剰余金		
当期首残高	2,709,682	2,717,397
当期変動額		
株式交換による増加	7,715	—
当期変動額合計	7,715	—
当期末残高	2,717,397	2,717,397
利益剰余金		
当期首残高	668,074	929,336
当期変動額		
剰余金の配当	△ 191,173	△ 158,645
当期純利益	450,832	533,816
連結子会社の減少に伴う減少	—	△ 4,724
持分法適用の関連会社の減少に伴う減少	—	△ 90
土地再評価差額金の取崩	1,603	△ 209
当期変動額合計	261,262	370,147
当期末残高	929,336	1,299,484
自己株式		
当期首残高	—	—
当期変動額		
自己株式の取得	—	△ 210,003
当期変動額合計	—	△ 210,003
当期末残高	—	△ 210,003
株主資本合計		
当期首残高	5,148,753	5,417,730
当期変動額		
株式交換による増加	7,715	—
剰余金の配当	△ 191,173	△ 158,645
当期純利益	450,832	533,816
自己株式の取得	—	△ 210,003
連結子会社の減少に伴う減少	—	△ 4,724
持分法適用の関連会社の減少に伴う減少	—	△ 90
土地再評価差額金の取崩	1,603	△ 209
当期変動額合計	268,977	160,144
当期末残高	5,417,730	5,577,875

(単位：百万円)

	平成22年度 自平成22年4月1日 至平成23年3月31日	平成23年度 自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	377,456	239,717
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△ 137,739	46,695
当期変動額合計	△ 137,739	46,695
当期末残高	239,717	286,413
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	△ 38,516	△ 8,921
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	29,595	△ 21,753
当期変動額合計	29,595	△ 21,753
当期末残高	△ 8,921	△ 30,674
土地再評価差額金		
当期首残高	34,897	33,294
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△ 1,603	5,784
当期変動額合計	△ 1,603	5,784
当期末残高	33,294	39,078
為替換算調整勘定		
当期首残高	△ 99,481	△ 119,696
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△ 20,214	△ 19,729
当期変動額合計	△ 20,214	△ 19,729
当期末残高	△ 119,696	△ 139,425
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	274,356	144,394
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△ 129,962	10,997
当期変動額合計	△ 129,962	10,997
当期末残高	144,394	155,391
新株予約権		
当期首残高	81	91
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	10	2
当期変動額合計	10	2
当期末残高	91	94
少数株主持分		
当期首残高	1,471,373	1,420,915
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△ 50,458	122,429
当期変動額合計	△ 50,458	122,429
当期末残高	1,420,915	1,543,345
純資産合計		
当期首残高	6,894,564	6,983,132
当期変動額		
株式交換による増加	7,715	—
剰余金の配当	△ 191,173	△ 158,645
当期純利益	450,832	533,816
自己株式の取得	—	△ 210,003
連結子会社の減少に伴う減少	—	△ 4,724
持分法適用の関連会社の減少に伴う減少	—	△ 90
土地再評価差額金の取崩	1,603	△ 209
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△ 180,409	133,429
当期変動額合計	88,567	293,574
当期末残高	6,983,132	7,276,706

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

区分	平成22年度	平成23年度
	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	742,878	877,310
減価償却費	98,943	105,452
減損損失	5,272	3,488
のれん償却額	12,256	10,584
負ののれん発生益	△ 100	—
段階取得に係る差損益(△は益)	△ 987	△ 25,050
持分法による投資損益(△は益)	23,518	37,602
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△ 57,467	△ 61,230
賞与引当金の増減額(△は減少)	407	2,150
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	193	447
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△ 1,715	247
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△ 5,216	△ 138
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△ 293	981
睡眠預金払戻損失引当金の増減(△)	△ 1,810	1,056
利息返還損失引当金の増減額(△は減少)	102	△ 32,864
資金運用収益	△ 1,485,778	△ 1,503,442
資金調達費用	268,627	264,340
有価証券関係損益(△)	△ 65,595	△ 132,569
金銭の信託の運用損益(△は運用益)	148	1,464
為替差損益(△は益)	278,663	15,750
固定資産処分損益(△は益)	3,116	2,142
特定取引資産の純増(△)減	△ 39,638	△ 1,535,037
特定取引負債の純増減(△)	241,247	1,028,229
貸出金の純増(△)減	1,281,535	△ 1,166,065
預金の純増減(△)	3,650,129	2,203,001
譲渡性預金の純増減(△)	1,357,503	362,846
借入金(劣後特約付借入金を除く)の純増減(△)	4,637,862	△ 1,860,807
有利息預け金の純増(△)減	△ 1,190,738	465,789
コールローン等の純増(△)減	△ 39,764	△ 754,128
債券貸借取引支払保証金の純増(△)減	714,832	206,096
コールマネー等の純増減(△)	165,025	472,525
コマーシャル・ペーパーの純増減(△)	26,333	856,129
債券貸借取引受入担保金の純増減(△)	1,399,014	97,255
外国為替(資産)の純増(△)減	△ 7,663	△ 205,926
外国為替(負債)の純増減(△)	64,083	46,712
リース債権及びリース投資資産の純増(△)減	△ 1,528	△ 32,947
短期社債(負債)の純増減(△)	36,109	△ 172,799
普通社債発行及び償還による増減(△)	515,788	333,904
信託勘定借の純増減(△)	56,617	227,552
資金運用による収入	1,509,292	1,535,429
資金調達による支出	△ 282,237	△ 269,429
その他	△ 261,920	371,799
小計	13,647,044	1,777,854
法人税等の支払額	△ 68,248	△ 70,279
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,578,795	1,707,574

(単位：百万円)

区分	平成22年度 自平成22年4月1日 至平成23年3月31日	平成23年度 自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△ 67,149,935	△ 50,585,397
有価証券の売却による収入	36,612,574	32,342,866
有価証券の償還による収入	19,626,249	15,925,691
金銭の信託の増加による支出	△ 6,000	△ 1,500
金銭の信託の減少による収入	5,000	1,460
有形固定資産の取得による支出	△ 70,732	△ 69,128
有形固定資産の売却による収入	2,984	5,640
無形固定資産の取得による支出	△ 70,716	△ 79,895
無形固定資産の売却による収入	243	24
子会社株式の売却による収入	314	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△ 10,756	△ 67,039 ^{*2}
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 11,060,775	△ 2,527,280
財務活動によるキャッシュ・フロー		
劣後特約付借入れによる収入	80,000	106,000
劣後特約付借入金の返済による支出	△ 87,500	△ 103,000
劣後特約付社債及び新株予約権付社債の発行による収入	256,853	557,458
劣後特約付社債及び新株予約権付社債の償還による支出	△ 314,900	△ 306,471
配当金の支払額	△ 191,173	△ 158,645
少数株主からの払込みによる収入	389	—
少数株主への払戻による支出	△ 225	—
少数株主への配当金の支払額	△ 72,367	△ 72,588
自己株式の取得による支出	—	△ 210,003
子会社の自己株式の取得による支出	△ 1,001	△ 14
子会社の自己株式の売却による収入	17	183
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 329,907	△ 187,080
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 7,141	△ 4,743
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,180,971	△ 1,011,529
現金及び現金同等物の期首残高	3,358,994	5,539,966
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△ 2,064
現金及び現金同等物の期末残高	5,539,966	4,526,372 ^{*1}

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社 153社

主要な会社名
 SMBC日興証券株式会社
 株式会社みなと銀行
 株式会社関西アーバン銀行
 Sumitomo Mitsui Banking Corporation Europe Limited
 三井住友銀行(中国)有限公司
 SMBC Capital Markets, Inc.
 プロミス株式会社

プロミス株式会社他6社は当行によるプロミス株式会社に対する公開買付け及び当行の親会社である株式会社三井住友フィナンシャルグループによるプロミス株式会社の第三者割当増資の引受けにより、みなとエクイティサポート投資事業有限責任組合他4社は新規設立により、当連結会計年度より連結子会社としております。

SMBCファイナンスサービス株式会社は株式交換により株式会社三井住友フィナンシャルグループの子会社である株式会社セディナの完全子会社となったことにより、また、SMBCサポート&ソリューション株式会社他10社は合併等により子会社でなくなったため、当連結会計年度より連結子会社から除外しております。

(2) 非連結子会社

主要な会社名
 SBCS Co., Ltd.
 非連結子会社の総資産、経常収益、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等のそれぞれの合計額は、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社 4社

主要な会社名
 SBCS Co., Ltd.

(2) 持分法適用の関連会社 22社

主要な会社名
 三井住友アセットマネジメント株式会社
 PROMISE (SHENZHEN) CO., LTD. 他4社は重要性が増加したこと等により、当連結会計年度より持分法適用の関連会社としております。また、プロミス株式会社他5社は当行によるプロミス株式会社に対する公開買付け及び株式会社三井住友フィナンシャルグループによるプロミス株式会社の第三者割当増資の引受けにより、アットローン株式会社他4社は合併等により関連会社でなくなったため、当連結会計年度より持分法適用の関連会社から除外しております。

(3) 持分法非適用の非連結子会社

該当ありません。

(4) 持分法非適用の関連会社

主要な会社名
 Sumitomo Mitsui Asset Management (New York) Inc.
 持分法非適用の関連会社の当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等のそれぞれの合計額は、持分法適用の対象から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものであります。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

(1) 連結子会社の決算日は次のとおりであります。

10月末日	1社
12月末日	55社
1月末日	10社
3月末日	87社

(2) 10月末日を決算日とする連結子会社については1月末日現在、1月末日及び一部の12月末日を決算日とする連結子会社については3月末日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表により、また、その他の連結子会社についてはそれぞれの決算日の財務諸表により連結しております。
 連結決算日と上記の決算日等との間に生じた重要な取引については、必要な調整を行っております。

4. 開示対象特別目的会社に関する事項

(1) 開示対象特別目的会社の概要及び開示対象特別目的会社を利用した取引の概要

当行は、顧客から売掛債権の金銭債権買取業務等を行う特別目的会社(ケイマン法人及び一般社団法人等の形態によっております)13社に係る借入及びコマース・ペーパーでの資金調達に関し、貸出金、信用枠及び流動性枠を供与しております。
 特別目的会社13社の直近の決算日における資産総額(単純合算)は2,175,773百万円、負債総額(単純合算)は2,175,548百万円であり
 ます。
 なお、いずれの特別目的会社についても、当行は議決権のある出資等は有しておらず、役員や従業員の派遣もありません。

(2) 開示対象特別目的会社との取引金額等

・主な取引の期末残高

(単位:百万円)

	平成23年度 (平成24年3月31日現在)
貸出金	1,486,284
信用枠	723,383
流動性枠	352,547

・主な損益

(単位:百万円)

	平成23年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
貸出金利息	13,388
役務取引等収益	1,842

5. 会計処理基準に関する事項

(1) 特定取引資産・負債の評価基準及び収益・費用の計上基準

金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る短期的な変動、市場間の格差等を利用して利益を得る等の目的(以下、「特定取引目的」という)の取引については、取引の約定時点を基準とし、連結貸借対照表上「特定取引資産」及び「特定取引負債」に計上するとともに、当該取引からの損益を連結損益計算書上「特定取引収益」及び「特定取引費用」に計上しております。
 特定取引資産及び特定取引負債の評価は、有価証券及び金銭債権等については連結決算日等の時価により、スワップ・先物・オプション取引等の派生商品については連結決算日等において決済したものとみなした額により行っております。
 また、特定取引収益及び特定取引費用の損益計上は、当連結会計年度中の受払利息等に、有価証券、金銭債権等については前連結会計年度末と当連結会計年度末における評価損益の増減額を、派生商品については前連結会計年度末と当連結会計年度末におけるみなし決済からの損益相当額の増減額を加えております。

(2) 有価証券の評価基準及び評価方法

①有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、持分法非適用の非連結子会社株式及び持分法非適用の関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券で時価のあるものうち株式(外国株式を含む)については当連結会計年度末前1カ月の市場価格の平均等、それ以外については当連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、時価ヘッジの適用により損益に反映させた額を除き、全部純資産直入法により処理しております。

②金銭の信託において信託財産を構成している有価証券の評価は、上記(1)及び(2)①と同じ方法により行っております。

(3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引(特定取引目的の取引を除く)の評価は、時価法により行っております。

(4) 減価償却の方法

①有形固定資産(リース資産を除く)

当行の有形固定資産は、定額法(ただし、建物以外については定率法)を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	7年～50年
その他	2年～20年

連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定額法により償却しております。

②無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び国内連結子会社における利用可能期間(主として5年)に基づいて償却しております。

③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(5) 貸倒引当金の計上基準

当行及び主要な連結子会社の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下、「破綻先」という)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下、「実質破綻先」という)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下、「破綻懸念先」という)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

当行においては、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる破綻懸念先に係る債権及び債権の全部又は一部が3カ月以上延滞債権又は貸出条件緩和債権に分類された今後の管理に注意を要する債務者に対する債権のうち与信額一定額以上の大口債務者に係る債権等については、キャッシュ・フロー見積法(DCF法)を適用し、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もり、当該キャッシュ・フローを当初の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を計上しております。

上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。特定海外債権については、対象国の政治経済情勢等を勘案して必要と認められる金額を特定海外債権引当金として計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業部店と所管審査部が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

その他の連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は607,379百万円であります。

(6) 賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

(7) 役員賞与引当金の計上基準

役員賞与引当金は、役員(執行役員を含む、以下同じ)への賞与の支払いに備えるため、役員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

(8) 退職給付引当金の計上基準

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。また、過去勤務債務及び数理計算上の差異の損益処理方法は以下のとおりであります。

過去勤務債務：

その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(主として9年)による定額法により損益処理

数理計算上の差異：

各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(主として9年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の際連結会計年度から損益処理

(9) 役員退職慰労引当金の計上基準

役員退職慰労引当金は、役員に対する退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づく当連結会計年度末の要支給額を計上しております。

(10) ポイント引当金の計上基準

ポイント引当金は、「SMBCポイントバック」やクレジットカードのポイント制度等において顧客へ付与したポイントの将来の利用による負担に備えるため、未利用の付与済ポイントを金額に換算した残高のうち、将来利用される見込額を合理的に見積もり、必要と認める額を計上しております。

(11) 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、一定の条件を満たし負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を計上しております。

(12) 利息返還損失引当金の計上基準

利息返還損失引当金は、将来の利息返還の請求に備えるため、過去の返還実績等に基づく将来の返還損失見込額を計上しております。

(13) 特別法上の引当金の計上基準

特別法上の引当金は、金融商品取引責任準備金であり、有価証券の売買その他の取引又はデリバティブ取引等に関して生じた事故による損失の補填に充てるため、金融商品取引法第46条の5の規定に基づき計上しております。

(14) 外貨建資産・負債の換算基準

当行の外貨建資産・負債及び海外支店勘定については、取得時の為替相場による円換算額を付す子会社株式及び関連会社株式を除き、主として連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。また、連結子会社の外貨建資産・負債については、それぞれの決算日等の為替相場により換算しております。

(15) リース取引等に関する収益及び費用の計上基準

①ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

受取利息相当額を収益として各期に配分する方法によっております。

②オペレーティング・リース取引の収益の計上基準

主に、リース期間に基づくリース契約上の取受すべき月当たりのリース料を基準として、その経過期間に対応するリース料を計上しております。

③割賦販売取引の売上高及び売上原価の計上基準

主に、割賦契約による支払期日を基準として当該経過期間に対応する割賦売上高及び割賦原価を計上しております。

(16) 重要なヘッジ会計の方法

①金利リスク・ヘッジ

当行は、金融資産・負債から生じる金利リスクのヘッジ取引に対するヘッジ会計の方法として、繰延ヘッジを適用しております。小口多数の金銭債権債務に対する包括ヘッジについては、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号。以下、「業種別監査委員会報告第24号」という)に規定する繰延ヘッジを適用しております。

相場変動を相殺する包括ヘッジの場合には、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を残存期間ごとにグルーピングのうえ有効性の評価をしております。また、キャッシュ・フローを固定する包括ヘッジの場合には、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。

個別ヘッジについても、当該個別ヘッジに係る有効性の評価をしております。

また、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第15号)を適用して実施しておりました多数の貸出金・預金等から生じる金利リスクをデリバティブ取引を用いて総体で管理する従来の「マクロヘッジ」に基づく繰延ヘッジ損益のうち、業種別監査委員会報告第24号の適用に伴いヘッジ会計を中止又は時価ヘッジに移行したヘッジ手段に係る金額については、個々のヘッジ手段の金利計算期間に応じ、平成15年度から最長12年間にわたって資金調達費用又は資金運用収益として期間配分しております。なお、当連結会計年度末における「マクロヘッジ」に基づく繰延ヘッジ損失の総額は309百万円(税効果額控除前)、繰延ヘッジ利益の総額は188百万円(同前)であります。

②為替変動リスク・ヘッジ

当行は、異なる通貨での資金調達・運用を動機として行われる通貨スワップ取引及び為替スワップ取引について、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号。以下、「業種別監査委員会報告第25号」という)に基づく繰延ヘッジを適用しております。

これは、異なる通貨での資金調達・運用に伴う外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引について、その外貨ポジションに見合う外貨建金銭債権債務等が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価するものであります。

また、外貨建子会社株式及び関連会社株式並びに外貨建その他有価証券(債券以外)の為替変動リスクをヘッジするため、事前にヘッジ対象となる外貨建有価証券の銘柄を特定し、当該外貨建有価証券について外貨ベースで取得原価以上の直先負債が存在していること等を条件に、包括ヘッジとして繰延ヘッジ又は時価ヘッジを適用しております。

③株価変動リスク・ヘッジ

当行は、その他有価証券のうち政策投資目的で保有する株式の相場変動を相殺する個別ヘッジについては時価ヘッジを適用しており、当該個別ヘッジに係る有効性の評価をしております。

④連結会社間取引等

デリバティブ取引のうち連結会社間及び特定取引勘定とそれ以外の勘定との間(又は内部部門間)の内部取引については、ヘッジ手段として指定している金利スワップ取引及び通貨スワップ取引等に対して、業種別監査委員会報告第24号及び同第25号に基づき、恣意性を排除し厳格なヘッジ運営が可能と認められる対外カバー取引の基準に準拠した運営を行っているため、当該金利スワップ取引及び通貨スワップ取引等から生じる収益及び費用は消去せずに損益認識又は繰延処理を行っております。

なお、一部の連結子会社において、繰延ヘッジ又は時価ヘッジあるいは金利スワップの特例処理を適用しております。

(17) のれんの償却方法及び償却期間

SMBC日興証券株式会社、株式会社関西アーバン銀行及びプロミス株式会社に係るのれんは20年間の均等償却、その他については発生年度に全額償却しております。

(18) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、現金、無利息預け金及び日本銀行への預け金であります。

(19) 消費税等の会計処理

当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

【未適用の会計基準等】

(連結財務諸表に関する会計基準(企業会計基準第22号)等の改正

(平成23年3月25日)

当会計基準等の改正により、従来、一定の要件を満たす特別目的会社については、当該特別目的会社に対する出資者及び当該特別目的会社に資産を譲渡した会社の子会社に該当しないものと推定するとされていた取扱いが、資産を譲渡した会社のみ適用されることとなります。なお、当行は、平成25年4月1日に開始する連結会計年度の期首から改正後の当会計基準等を適用する予定であります。

改正後の当会計基準等の適用により、従来、当行の子会社に該当しないものとしていた特別目的会社のうち、当行が資産の譲渡者ではない特別目的会社が新たに連結の範囲に含まれることとなり、当該特別目的会社の資産、負債、収益及び費用が当行の連結財務諸表に計上されることとなります。なお、改正後の当会計基準等の適用による影響は、現在検討中であります。

【表示方法の変更】

(連結損益計算書関係)

「金融商品会計に関する実務指針」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第14号)が平成23年3月29日付で一部改正されたことに伴い、従来「特別利益」に計上しておりました「貸倒引当金戻入益」及び「償却債権取立益」は、当連結会計年度から「その他経常収益」に計上しておりますが、同実務指針の定めに基づき、前連結会計年度については遡及処理を行っておりません。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正から、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

(法人税率の変更等による影響)

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。また、欠損金の繰越控除制度が改正され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から繰越控除前の所得の金額の100分の80相当額が控除限度額とされることとなりました。これらの改正に伴い、当期純利益は32,338百万円減少しております。

(連結貸借対照表関係)

- ※1. 有価証券には、非連結子会社及び関連会社の株式144,119百万円及び出資金1,317百万円を含んでおります。関連会社の株式のうち、共同支配企業に対する投資額は98,287百万円であります。
- ※2. 無担保の消費貸借契約により貸し付けている有価証券が、「有価証券」中の国債、株式及び「特定取引資産」中の商品有価証券に合計51,022百万円含まれております。
無担保の消費貸借契約により借り入れている有価証券並びに現先取引及び現金担保付債券貸借取引により受け入れている有価証券のうち、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有する有価証券で、(再)担保に差し入れている有価証券は1,961,135百万円、当連結会計年度末に当該処分をせずに所有しているものは378,167百万円であります。
- ※3. 貸出金のうち、破綻先債権額は73,378百万円、延滞債権額は1,060,320百万円であります。
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下、「未収利息不計上貸出金」という)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
- ※4. 貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は18,178百万円であります。
なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
- ※5. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は507,428百万円であります。
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。
- ※6. 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は1,659,306百万円であります。
なお、上記3.から6.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
- ※7. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は754,204百万円であります。
- ※8. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産	
現金預け金	293,787百万円
コールローン及び買入手形	490,255百万円
買入金銭債権	7,096百万円
特定取引資産	3,715,510百万円
有価証券	7,277,862百万円
貸出金	2,572,382百万円
リース債権及びリース投資資産	4,189百万円
その他資産(延払資産等)	971百万円
担保資産に対応する債務	
預金	19,144百万円
コールマネー及び売渡手形	825,000百万円
売現先勘定	1,676,902百万円
債券貸借取引受入担保金	5,180,034百万円
特定取引負債	513,941百万円
借入金	4,300,105百万円
その他負債	2,392百万円
支払承諾	109,212百万円

上記のほか、資金決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、現金預け金23,992百万円、特定取引資産86,879百万円及び有価証券24,364,535百万円を差し入れております。

また、その他資産のうち保証金は99,516百万円、先物取引差入証拠金は17,623百万円、その他の証拠金等は63,945百万円であります。

- ※9. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は43,037,404百万円あります。このうち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なものが35,577,473百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている社内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

- ※10. 当行及び一部の連結子会社は、「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成13年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額のうち親会社持分相当額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。
また、一部の持分法適用の関連会社も同法律に基づき事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を控除した金額のうち親会社持分相当額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日

当行

平成10年3月31日及び平成14年3月31日

一部の連結子会社及び持分法適用の関連会社

平成11年3月31日、平成14年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

当行

「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額、同条第4号に定める路線価及び同条第5号に定める不動産鑑定士又は不動産鑑定士補による鑑定評価に基づいて、奥行価格補正、時点修正、近隣売買事例による補正等、合理的な調整を行って算出。

一部の連結子会社及び持分法適用の関連会社

「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額及び同条第5号に定める不動産鑑定士又は不動産鑑定士補による鑑定評価に基づいて算出。

- ※11. 有形固定資産の減価償却累計額 572,497百万円
- ※12. 有形固定資産の圧縮記帳額 67,055百万円
(当連結会計年度圧縮記帳額 1,903百万円)
- ※13. 借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金374,250百万円が含まれております。
- ※14. 社債には、劣後特約付社債2,402,275百万円が含まれております。
- ※15. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額は1,851,841百万円あります。

(連結損益計算書関係)

- ※1. その他の経常収益には、株式等売却益 14,733 百万円を含んでおりません。
- ※2. 営業経費には、研究開発費 273 百万円を含んでおります。
- ※3. その他の経常費用には、貸出金償却 50,377 百万円、株式等売却損 10,798 百万円、株式等償却 29,721 百万円、持分法による投資損失 37,602 百万円及び延滞債権等を売却したことによる損失 25,213 百万円を含んでおります。
- ※4. その他の特別利益は、段階取得に係る差益 25,050 百万円であります。
- ※5. 当連結会計年度において、以下の資産について、回収可能価額と帳簿価額との差額を減損損失として特別損失に計上しております。

(単位：百万円)

地域	主な用途	種類	減損損失額
首都圏	遊休資産 38 物件	土地、建物等	1,168
	その他 4 物件		58
近畿圏	営業用店舗 29 カ店	土地、建物等	246
	遊休資産 41 物件		1,630
	その他 1 物件		2
その他	遊休資産 16 物件	土地、建物等	381

当行は、継続的な収支の管理・把握を実施している各営業拠点(物理的に同一の資産を共有する拠点)をグループ内の最小単位としております。本店、研修所、事務・システムの集中センター、福利厚生施設等の独立したキャッシュ・フローを生み出さない資産は共用資産としております。また、遊休資産については、物件ごとにグループ内の単位としております。また、連結子会社については、各営業拠点をグループ内の最小単位とする等の方法でグループ内を行っております。

当連結会計年度は、当行では遊休資産について、また、連結子会社については、営業用店舗及び遊休資産等について、投資額の回収が見込まれない場合に、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。回収可能価額は、主として正味売却価額により算出しております。正味売却価額は、不動産鑑定評価基準に準拠した評価額から処分費用見込額を控除する等により算出しております。

(連結包括利益計算書関係)

- ※1. その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額
- (単位：百万円)
- | | |
|-------------------|----------|
| その他有価証券評価差額金： | |
| 当期発生額 | 223,065 |
| 組替調整額 | △137,726 |
| 税効果調整前 | 85,338 |
| 税効果額 | △31,350 |
| その他有価証券評価差額金 | 53,988 |
| 繰延ヘッジ損益： | |
| 当期発生額 | △22,589 |
| 組替調整額 | △10,336 |
| 税効果調整前 | △32,925 |
| 税効果額 | 11,028 |
| 繰延ヘッジ損益 | △21,897 |
| 土地再評価差額金： | |
| 当期発生額 | — |
| 組替調整額 | — |
| 税効果調整前 | — |
| 税効果額 | 5,613 |
| 土地再評価差額金 | 5,613 |
| 為替換算調整勘定： | |
| 当期発生額 | △23,914 |
| 組替調整額 | 1 |
| 税効果調整前 | △23,912 |
| 税効果額 | — |
| 為替換算調整勘定 | △23,912 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額： | |
| 当期発生額 | △6,898 |
| 組替調整額 | 2,418 |
| 税効果調整前 | △4,479 |
| 税効果額 | — |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | △4,479 |
| その他の包括利益合計 | 9,312 |

(連結株主資本等変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：株)

	当連結会計年度期首株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末株式数
発行済株式				
普通株式	106,248,400	—	—	106,248,400
第1回第六種優先株式	70,001	—	—	70,001
合計	106,318,401	—	—	106,318,401
自己株式				
第1回第六種優先株式 ^(注)	—	70,001	—	70,001
合計	—	70,001	—	70,001

(注) 第1回第六種優先株式の自己株式の増加 70,001 株は、平成 23 年 4 月 1 日に、当行定款第 14 条の規定に基づき実施した自己株式の取得によるものであります。

2. 新株予約権に関する事項

(単位：株、百万円)

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数				当連結会計年度末残高
			当連結会計年度期首	当連結会計年度増加	当連結会計年度減少	当連結会計年度末	
連結子会社	—		—	—	—	94	
合計						94	

3. 配当に関する事項

- (1) 当連結会計年度中の配当金支払額

株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
普通株式	22,099	208
第1回第六種優先株式	3,097	44,250

※決議：平成 23 年 6 月 29 日 定時株主総会

基準日：平成 23 年 3 月 31 日

効力発生日：平成 23 年 6 月 29 日

株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
普通株式	133,447	1,256

※決議：平成 23 年 11 月 14 日 取締役会

基準日：平成 23 年 9 月 30 日

効力発生日：平成 23 年 11 月 24 日

- (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
普通株式	24,330	229

※決議：平成 24 年 6 月 28 日 定時株主総会

配当の原資：利益剰余金

基準日：平成 24 年 3 月 31 日

効力発生日：平成 24 年 6 月 28 日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- ※1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

(単位：百万円)

	平成 24 年 3 月 31 日現在
現金預け金勘定	7,600,074
日本銀行への預け金を除く有利息預け金	△3,073,702
現金及び現金同等物	4,526,372

- ※2. 当行による公開買付け及び当行の親会社である株式会社三井住友フィナンシャルグループによる第三者割当増資の引受けにより新たにプロミス株式会社他6社を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の主な内訳並びに株式の取得価額と取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

資産	1,671,681百万円
（うち貸出金	795,148百万円)
（うち支払承諾見返	564,528百万円)
負債	△1,511,980百万円
（うち借入金	△300,884百万円)
（うち利息返還損失引当金	△367,220百万円)
（うち支払承諾	△564,528百万円)
新株予約権	△56百万円
少数株主持分	△105,828百万円
のれん	39,222百万円
上記7社株式の取得価額	93,039百万円
上記7社現金及び現金同等物	△4,300百万円
企業結合直前に所有していた	
プロミスの普通株式の時価	△21,699百万円
差引：上記7社取得のための支出	67,039百万円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(1) 借手側

①リース資産の内容

(ア)有形固定資産

主として、店舗及び事務システム機器等であります。

(イ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

②リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「5. 会計処理基準に関する事項」の「(4)減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(2) 貸手側

①リース投資資産の内訳

	(単位：百万円)
リース料債権部分	128,186
見積残存価額部分	35,866
受取利息相当額	△20,559
合計	143,493

②リース債権及びリース投資資産に係るリース料債権部分の金額の回収予定額

	(単位：百万円)	
	リース債権に係る リース料債権部分	リース投資資産に係る リース料債権部分
1年以内	151	21,358
1年超2年以内	116	24,731
2年超3年以内	82	14,074
3年超4年以内	47	15,754
4年超5年以内	22	8,509
5年超	0	43,757
合計	421	128,186

- ③リース取引開始日が平成20年4月1日前に開始する連結会計年度に属する所有権移転外ファイナンス・リース取引につきましては、平成19年連結会計年度末日におけるリース資産の適正な帳簿価額(減価償却累計額控除後)を「リース債権及びリース投資資産」の平成20年連結会計年度期首の価額として計上しております。また、当該所有権移転外ファイナンス・リース取引の残存期間における利息相当額の各期への配分方法は、定額法によっております。このため、当該所有権移転外ファイナンス・リース取引について通常の売買処理に係る方法に準じて会計処理を行った場合に比べ、税金等調整前当期純利益は402百万円多く計上されております。

2. オペレーティング・リース取引

(1) 借手側

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)		
1年内	1年超	合計
31,630	260,727	292,358

(2) 貸手側

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)		
1年内	1年超	合計
364	524	888

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当行グループでは、銀行業務を中心に、証券業務、リース業務、クレジットカード業務、消費者金融業務、システム開発・情報処理業務などの金融サービスに係る事業を行っております。うち、銀行業務としては、預金業務、貸出業務、商品有価証券売買業務、有価証券投資業務、内国為替業務、外国為替業務、社債受託及び登録業務、信託業務、証券投資信託・保険商品の窓口販売業務等を行っております。

これら業務に伴い、当行グループでは、貸出金、債券、株式等の金融資産を保有するほか、預金、借入金、社債等による資金調達を行っております。また、お客さまのヘッジニーズにお応えする目的のほか、預金業務等に係る市場リスクをコントロールする目的(以下、「ALM目的」)や、金利・通貨等の相場の短期的な変動を利用して利益を得る目的(以下、「トレーディング目的」)で、デリバティブ取引を行っております。なお、当行では、ALM目的の取引は市場資金部及び市場運用部、トレーディング目的の取引は市場営業部が行っております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

①金融資産

当行グループが保有する主な金融資産は、国内外の法人向けや国内の個人向けの貸出金及び国債や社債等の債券や国内外の株式等の有価証券であります。国債等の債券については、ALM目的のほか、トレーディング目的、満期保有目的等で保有しております。また、株式につきましては、政策投資を主な目的として保有しております。これは、それぞれ貸出先、発行体の財務状況の悪化等に起因して当該資産の価値が減少・滅失する信用リスクや金利、為替、株価等の相場が変動することにより損失を被る市場リスク、市場の流動性の低下により適正な価格で希望する量の取引が困難となる市場流動性リスクに晒されております。これらのリスクにつきましては、後記の「(3)金融商品に係るリスク管理体制」で記載のとおり、適切に管理、運営しております。

②金融負債

当行グループが負う金融負債には、預金のほか、借入金、社債等が含まれます。預金は、主として国内外の法人と国内の個人預金であり、借入金及び社債には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金や劣後特約付社債が含まれております。金融負債についても、金融資産と同様に、市場リスクのほか、市場の混乱や信用力の低下等により資金の調達が困難となる資金流動性リスクに晒されております。これらのリスクにつきましては、後記の「(3)金融商品に係るリスク管理体制」で記載のとおり、適切に管理、運営しております。

③デリバティブ取引

当行グループで取り扱っているデリバティブ取引には、先物外国為替取引、金利、通貨、株式、債券、商品に係る先物取引、先渡取引、スワップ取引、オプション取引及びクレジットデリバティブ取引、天候デリバティブ取引等があります。

デリバティブ取引に係る主要なリスクとしては、市場リスク、取引相手の財務状況の悪化等により契約が履行されなくなり損失を被る信用リスク、市場流動性リスク等があります。これらのリスクにつきましては、後記の「(3)金融商品に係るリスク管理体制」で記載のとおり、適切に管理、運営しております。

なお、ALM目的で取り組むデリバティブ取引については、必要に応じてヘッジ会計を適用しておりますが、当該ヘッジ会計に関するヘッジ手段、ヘッジ対象、ヘッジ方針及びヘッジの有効性の評価方法等については、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項5.会計処理基準に関する事項(16)重要なヘッジ会計の方法」に記載しております。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

当行は、グループ全体のリスク管理に関する基本的事項を「リスク管理規程」として制定しております。同規程に基づき、グループ経営会議が「グループ全体のリスク管理の基本方針」を決定し、取締役会の承認を得る体制としております。グループ各社は、当行の定めた基本方針に基づいてリスク管理態勢を整備しており、経営企画部とともにグループ全体のリスク管理を統括するリスク統括部が、グループ各社のリスク管理態勢の整備状況やリスク管理の実施状況をモニタリングし、必要に応じて適切な指導を行うことで、グループ各社で発生する様々なリスクについて網羅的、体系的な管理を行う体制となっております。

①信用リスクの管理

当行においては、グループ各社がその業務特性に応じた信用リスクを統合的に管理すること、個別与信や与信ポートフォリオ全体の信用リスクを定量的かつ定期的に管理することなどに関する基本原則を定め、グループ全体の信用リスク管理の徹底を図っております。

(ア)信用リスクの管理体制

当行では、信用リスク管理の基本方針等の重要な事項については、経営会議で決定のうえ、取締役会の承認を得る体制としております。

リスク管理部門においては、投融資企画部が、クレジットポリシー、行内格付制度、与信権限規程、稟議規程の制定及び改廃、不良債権管理を含めた与信ポートフォリオの管理等、信用リスクの管理・運営を統括するとともに、リスク統括部と協働して、信用リスクの計量化(リスク資本、リスクアセットの算定)を行い、銀行全体の信用リスク量の管理を行っております。また同部は、リスクの状況をモニタリングするとともに、定期的に経営会議や取締役会等に報告を行っております。

また、投融資企画部の部内室のCPM室では、クレジットデリバティブや貸出債権の売却等を通じて与信ポートフォリオの安定化に努めております。

コーポレートサービス部門においては、企業調査部が、産業・業界に関する調査や個別企業の調査等を通じて主要与信先の実態把握や信用悪化懸念先の早期発見に努めるとともに、融資管理が、主に破綻懸念先以下に区分された与信先に対する債権の圧縮のための方策の立案、実施に努めております。

法人部門・個人部門等の業務部門においては、各部門内の所管審査部が中心となって、与信案件の審査、与信ポートフォリオの管理等を行っております。各部門においては、与信先の格付別に金額基準等を設けて与信の実行権限が定められており、信用リスクの程度が大きい与信先や与信案件については、所管審査部が重点的に審査・管理を行っております。

更に、機動的かつ適切なリスクコントロール並びに与信運営上の健全なガバナンス体制確保を目的とする協議機関として、各部門を横断する「信用リスク委員会」を設置しております。

なお、各部門から独立した監査部門が、定期的に、資産内容の健全性、格付・自己査定の実正確性、信用リスク管理態勢の適切性についての内部監査を行い、経営会議や取締役会等に監査結果の報告を行っております。

(イ)信用リスクの管理方法

当行では、個別与信あるいは与信ポートフォリオ全体のリスクを適切に管理するため、行内格付制度により、与信先あるいは与信案件ごとの信用リスクを適切に評価するとともに、信用リスクの計量化を行うことで、信用リスクを定量的に把握、管理しております。また、融資審査や債務者モニタリングによる個別与信の管理に加え、与信ポートフォリオの健全性と収益性の中期的な維持・改善を図るため、次のとおり適切な信用リスクの管理を行っております。

・自己資本の範囲内での適切なリスクコントロール

信用リスクを自己資本対比許容可能な範囲内に収めるため、内部管理上の信用リスク資本の限度枠として「信用リスク資本

極度」を設定しております。その極度に基づき、各業務部門別のガイドラインや、不動産ファイナンスやファンド・証券化投資等といった業務別ガイドラインを設定し、定期的にその遵守状況をモニタリングしております。

・集中リスクの抑制

与信集中リスクは、顕在化した場合に銀行の自己資本を大きく毀損させる可能性があることから、特定の業種に過度の信用リスクが集中しないように管理を行うとともに、大口与信先に対する与信上限ガイドラインの設定や重点的なローンレビューの実施等を行っております。また、各国の信用力の評価に基づき、国別の与信枠を設定し、カンントリーリスクの管理を実施しております。

・企業実態把握の強化とリスクに見合った収益の確保

企業実態をきめ細かく把握し、信用リスクに見合った適正な収益を確保することを与信業務の大原則とし、信用コスト、資本コスト及び経費控除後収益の改善に取り組んでおります。

・問題債権の発生抑制・圧縮

問題債権や今後問題が顕在化する懸念のある債権については、ローンレビュー等により対応方針やアクションプランを明確化したうえで、劣化防止・正常化の支援、回収・保全強化策の実施等、早期の対応に努めております。

・アクティブ・ポートフォリオマネジメントへの取り組み

クレジットデリバティブや貸出債権の売却等により、与信ポートフォリオの安定化を目指した機動的なポートフォリオコントロールに取り組んでおります。

なお、一部のファンドに対する出資や証券化商品、クレジットデリバティブ等、間接的に社債や貸付債権等の資産(裏付資産)のリスクを保有する商品は、市場で売買されることから、裏付資産の信用リスクとともに市場リスク・市場流動性リスクを併せ持つ商品であると認識しております。こうした商品に関しては、裏付資産の特性を詳細に分析・評価して信用リスクの管理を行う一方、当該商品の市場リスク等については、市場リスク・流動性リスク管理の体制の中で、網羅的に管理しております。また、それぞれのリスク特性に応じ各種ガイドラインを設定し、損失を被るリスクを適切に管理しております。

デリバティブ取引の信用リスクについては、時価ベースでの信用リスク額を定期的に算出し、適切に管理しております。取引の相手方が取引を頻繁に行う金融機関である場合には、倒産等により取引相手が決済不能となった場合に各種の債権債務を一括清算することが可能となる一括清算ネットリング契約を締結するなど、信用リスクを抑制する運営を行っております。

②市場リスク・流動性リスクの管理

当行においては、リスク許容量の上限を設定し定量的な管理をすること、リスク管理プロセスに透明性を確保すること、フロント、ミドル、バックの組織的な分離を行い、実効性の高い相互牽制機能を確保することなどを基本原則として、グループ全体の市場リスク・流動性リスク管理を行っております。

(ア)市場リスク・流動性リスクの管理体制

当行では、市場リスク・流動性リスク管理の基本方針、リスク管理枠等の重要な事項については、経営会議で決定のうえ、取締役会の承認を得る体制としております。

また、市場取引を行う業務部門から独立した前記のリスク統括部が市場リスク・流動性リスクを一元管理する体制を構築しております。同部は、市場リスク・流動性リスクの状況をモニタリングするとともに、定期的に経営会議や取締役会等に報告を行っております。

更に、各部門を横断する「ALM委員会」を設置し、市場リスク・流動性リスク枠の遵守状況の報告及びALMの運営方針の審議等を行っております。また、事務ミスや不正取引等を防止するため、業務部門(フロントオフィス)、管理部門(ミドルオフィス)及び事務部門(バックオフィス)それぞれの部門間での相互牽制体制を構築しております。

なお、各部門から独立した監査部門が、定期的に、これらのリスク管理態勢の適切性についての内部監査を行い、経営会議や取締役会等に監査結果の報告を行っております。

(イ)市場リスク・流動性リスクの管理方法

・市場リスクの管理

当行では、市場取引に関する業務運営方針等に基づき、自己資本等を勘案して定める「リスク資本極度」の範囲内で、「VaR（バリュー・アット・リスク：一定の確率の下で被る可能性がある予想最大損失額）」や損失額の上限值を設定し、市場リスクを管理しております。

なお、当行では、VaRの計測にヒストリカル・シミュレーション法（過去のデータに基づいた市場変動のシナリオを作成して損益変動シミュレーションを行うことにより最大損失額を推定する手法）を採用しております。バンキング業務（貸出金・債券等の資産、預金等の負債に係る金利・期間等のコントロールを通じて収益の極大化を図る市場業務）及びトレーディング業務（市場価格の短期的な変動や市場間の格差等を利用して利益を得る市場業務）につきましては、4年間のデータに基づき、1日の相場変動によって1%の確率で起こり得る最大損失額を算出しております。政策投資株式（上場銘柄）の保有につきましては、前連結会計年度はバンキング業務及びトレーディング業務と同様の基準で最大損失額を算出しておりましたが、当連結会計年度より、10年間のデータに基づき、1年の相場変動によって1%の確率で起こり得る最大損失額を算出しております。

また、為替変動リスク、金利変動リスク、株価変動リスク、オプションリスクなど市場リスクの各要素については、「BPV（ベース・ポイント・バリュー：金利が0.01%変化したときの時価評価変化額）」など、各要素のリスク管理に適した指標に対して上限値を設定し、管理しております。

・市場リスクに係る定量的情報

当連結会計年度末日における当行及びその他の主要な連結子会社のVaRの合計値は、バンキング業務で313億円、トレーディング業務で93億円、政策投資株式（上場銘柄）の保有で8,730億円であります。

なお、これらの値は前提条件や算定方法等の変更によって異なる値となる統計的な値であり、将来の市場環境が過去の相場変動に比して激変するリスクを捕捉していない場合があります。

・流動性リスクの管理

当行では、「資金ギャップに対する極度・ガイドラインの設定」、「コンティンジェンシープランの策定」及び「流動性補完の確保」の枠組みで資金流動性リスクを管理しております。資金ギャップ極度・ガイドラインの管理を行うことで、短期的資金調達に過度に依存することを回避しているほか、緊急時に備えて資金ギャップ極度・ガイドラインの圧縮などのアクションプランを取りまとめたコンティンジェンシープランを策定しております。また、万一の市場混乱時にも資金調達に支障をきたさないよう、流動性補完として、米国債などの即時売却可能な資産の保有や緊急時借入れ枠の設定等により調達手段を確保しております。

また、市場性商品やデリバティブ取引等に係る市場流動性リスクについては、通貨・商品、取引期間等を特定した拠点別の取引限度額を設定するとともに、金融先物取引等については、保有建玉を市場全体の未決済建玉残高の一定割合以内に限定するなどの管理を行っております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には、合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件によった場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

(1)平成24年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。

なお、その他有価証券中の非上場株式等時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品((3)参照)や子会社株式及び関連会社株式は含めておりません。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
① 現金預け金 ^{(注)1}	7,594,861	7,599,456	4,594
② コールローン及び買入手形 ^{(注)1}	1,290,685	1,291,614	928
③ 買現先勘定	227,749	228,471	722
④ 債券貸借取引支払保証金	4,493,570	4,493,570	—
⑤ 買入金銭債権 ^{(注)1}	1,264,885	1,270,774	5,889
⑥ 特定取引資産			
売買目的有価証券	4,186,542	4,186,542	—
⑦ 金銭の信託	17,763	17,763	—
⑧ 有価証券			
満期保有目的の債券	5,277,666	5,346,851	69,184
その他有価証券	36,307,126	36,307,126	—
⑨ 貸出金	63,584,767		
貸倒引当金 ^{(注)1}	△691,815		
	62,892,952	63,970,503	1,077,551
⑩ 外国為替 ^{(注)1}	1,276,510	1,281,154	4,643
⑪ リース債権及びリース投資資産 ^{(注)1}	143,125	144,727	1,601
資産計	124,973,440	126,138,556	1,165,115
① 預金	84,328,991	84,336,974	7,982
② 譲渡性預金	8,784,438	8,783,918	△519
③ コールマネー及び売渡手形	2,144,599	2,144,599	△0
④ 売現先勘定	1,676,902	1,676,902	—
⑤ 債券貸借取引受入担保金	5,809,603	5,809,603	—
⑥ コマーシャル・ペーパー	1,193,249	1,193,249	—
⑦ 特定取引負債			
売付商品債券	2,129,882	2,129,882	—
⑧ 借入金	6,835,091	6,845,590	10,498
⑨ 外国為替	302,580	302,580	—
⑩ 短期社債	244,988	244,988	—
⑪ 社債	4,540,708	4,670,209	129,501
⑫ 信託勘定借	443,723	443,723	—
負債計	118,434,760	118,582,224	147,463
デリバティブ取引 ^{(注)2}			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(103,003)	(103,003)	—
ヘッジ会計が適用されているもの	311,927	311,927	—
デリバティブ取引計	208,924	208,924	—

(注) 1. 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。なお、現金預け金、コールローン及び買入手形、買入金銭債権、外国為替並びにリース債権及びリース投資資産に対する貸倒引当金については、重要性が乏しいため、連結貸借対照表計上額から直接減額しております。

2. 特定取引資産・負債及びその他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。

なお、デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で表示しております。

(2)金融商品の時価の算定方法

資産

- ①現金預け金、②コールローン及び買入手形、③買現先勘定、④債券貸借取引支払保証金、⑤貸出金、⑥外国為替並びに⑦リース債権及びリース投資資産

これらの取引のうち、満期のない預け金や返済期限の定めのない当座貸越等については、当該取引の特性により、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額をもって時価としております。

また、期末時点における残存期間が6カ月以内の短期の取引についても、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、主として帳簿価額をもって時価としております。

残存期間が6カ月を超える取引については、原則として、与信先の内部格付や担保設定状況等を勘案した将来キャッシュ・フローの見積額を、無リスク金利に一定の経費率を勘案したレートにて割り引いた現在価値をもって時価としております。一部の連結子会社においては、約定金利により算出した将来キャッシュ・フローの見積額を、無リスク金利に信用リスク・プレミアム等を加味したレートにて割り引いた現在価値をもって時価としております。

なお、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、将来キャッシュ・フローの見積額の現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しており、時価は連結決算日における貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似していることから、当該価額をもって時価としております。

- ⑤買入金銭債権

買入金銭債権のうち、住宅ローン債権流動化に伴う劣後信託受益権については、同信託における原ローン債権等の資産評価額から優先受益権等の評価額を差し引いた価額をもって時価としております。その他の取引については、原則として⑨貸出金等と同様の方法により算定した価額をもって時価としております。

- ⑥特定取引資産

トレーディング目的で保有する債券等の有価証券については、原則として当連結会計年度末日の市場価格をもって時価としております。

- ⑦金銭の信託

金銭の信託については、原則として、信託財産である有価証券を⑩有価証券と同様の方法により算定した価額をもって時価としております。

- ⑧有価証券

原則として、株式(外国株式を含む)については当連結会計年度末前1カ月の市場価格の平均をもって時価としております。公募債等、株式以外の市場価格のある有価証券については、当連結会計年度末日の市場価格を基に算定した価額をもって時価としております。

変動利付国債については、「金融資産の時価の算定に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第25号)を踏まえ、国債の利回り等から見積もった将来キャッシュ・フローを、同利回りに基づく割引率を用いて割り引くことにより算定した価額をもって時価としており、国債の利回り及び同利回りのボラティリティが主な価格決定変数であります。市場価格のない私募債等については、与信先の内部格付や担保設定状況等を勘案した将来キャッシュ・フローの見積額を、無リスク金利に一定の経費率を勘案したレートにて割り引いた現在価値をもって時価としております。ただし、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先については、当該債券の額面金額から、貸出金と同様に算定した貸倒見積高相当額を控除した金額をもって時価としております。また、公募投資信託については公表されている基準価格、私募投資信託等については証券会社等より入手する基準価格又は純資産価格より算定した価額をもって時価としております。

負債

- ①預金、②譲渡性預金及び③信託勘定借

要求払預金、満期のない預り金等については、期末における帳簿価額の時価とみなしております。また、期末時点における残存期間が6カ月以内の短期の取引については、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額をもって時価としております。残存期間が6カ月を超える取引については、原則として、将来のキャッシュ・フローを、新規に当該同種預金を残存期間まで受け入れる際に用いるレートで割り引いた現在価値をもって時価としております。

- ③コールマネー及び受渡手形、④売現先勘定、⑤債券貸借取引受入担保金、⑥コマースナル・ペーパー、⑦借入金、⑧短期社債及び⑨社債

期末時点における残存期間が6カ月以内の短期の取引については、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額をもって時価としております。残存期間が6カ月を超える取引については、原則として、将来のキャッシュ・フローを、市場における同種商品による残存期間までの再調達レートで割り引いた現在価値をもって時価としております。なお、社債については、証券会社の提示するベンチマーク債や公募劣後債の利回り情報等から算出した割引レートによって割り引いた現在価値をもって時価としております。

- ⑦特定取引負債

トレーディング目的で行う売付債券等については、原則として、当該債券等の当連結会計年度末日の市場価格をもって時価としております。

- ⑨外国為替

他の銀行から受入れた外貨預り金等満期のない預り金については、期末における帳簿価額の時価とみなしてしております。

また、外国為替関連の短期借入金等の時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額をもって時価としております。

デリバティブ取引

取引所取引については、取引所等における最終の価格をもって時価としております。店頭取引のうち、金利・通貨・株式・債券及びクレジットデリバティブについては、将来キャッシュ・フローの割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定した期末時点におけるみなし決済金額をもって時価としております。また、商品関連デリバティブ取引については、取引対象物の価格、契約期間等の構成要素に基づき算定した期末時点におけるみなし決済金額をもって時価としております。

- (3)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額は次のとおりであります。

(単位：百万円)

区分	平成24年3月31日現在
買入金銭債権	
市場価格のない買入金銭債権(注)1	6,062
有価証券	
非上場株式等(注)2(注)4	327,143
組合出資金等(注)3(注)4	321,821
合計	655,026

- (注)1.市場価格がなく、合理的な価額の見積もりが困難である、エクイティ性の強い貸付債権信託受益権であります。
 2.非上場株式等については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象とはしておりません。
 3.市場価格のない出資金等であります。組合等への出資のうち、組合の貸借対照表及び損益計算書を純額で取り込む方法により経理しているものについての出資簿価部分を含んでおります。
 4.非上場株式及び組合出資金等について、当連結会計年度において8,375百万円減損処理を行っております。

(4) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
預け金	6,607,659	3,166	—	—
コールローン及び買入手形	1,264,667	27,150	—	—
買現先勘定	168,028	59,721	—	—
債券貸借取引支払保証金	4,493,570	—	—	—
買入金銭債権	869,125	124,014	67,576	194,108
有価証券(注)1	8,573,825	26,415,475	3,245,959	625,461
満期保有目的の債券	310,253	4,773,397	181,500	—
うち国債	210,000	4,465,000	170,000	—
地方債	17,934	159,310	—	—
社債	81,319	149,086	8,000	—
その他	1,000	—	3,500	—
その他有価証券のうち満期があるもの	8,263,571	21,642,078	3,064,459	625,461
うち国債	7,128,558	14,798,646	2,399,100	—
地方債	44,336	233,668	12,738	42
社債	546,149	1,887,056	348,066	54,126
その他	544,526	4,722,707	304,554	571,292
貸出金(注)1(注)2	13,456,614	23,480,858	8,877,032	8,424,919
外国為替(注)1	1,276,515	1,276	—	—
リース債権及びリース投資資産(注)1	16,995	55,275	23,677	14,126
合計	36,727,002	50,166,937	12,214,246	9,258,616

(注) 1. 破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めないものは含めておりません。当該金額の内訳は、有価証券 27,301 百万円、貸出金 1,107,614 百万円、外国為替 2,845 百万円、リース債権及びリース投資資産 334 百万円であります。

2. 貸出金のうち、期間の定めのないもの 8,237,792 百万円は含めておりません。

(5) 社債、借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
預金(注)	79,646,399	4,053,021	362,805	266,577
譲渡性預金	8,726,375	58,062	—	—
コールマネー及び売渡手形	2,144,599	—	—	—
売現先勘定	1,676,902	—	—	—
債券貸借取引受入担保金	5,809,603	—	—	—
コマーシャル・ペーパー	1,193,249	—	—	—
借入金	5,738,213	565,663	298,988	232,226
外国為替	302,580	—	—	—
短期社債	245,000	—	—	—
社債	454,939	1,916,866	1,909,821	260,837
信託勘定借	443,723	—	—	—
合計	106,381,588	6,593,614	2,571,615	759,642

(注) 預金のうち、要求預金については、「1年以内」に含めて開示しております。なお、預金には、当座預金を含めております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当行及び国内連結子会社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けており、一部の国内連結子会社では、確定拠出年金制度のほか、総合設立型の厚生年金基金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

また、一部の在外連結子会社では、確定給付型の退職給付制度のほか、確定拠出型の退職給付制度を設けております。

なお、当行及び一部の国内連結子会社において退職給付信託を設定しております。

2. 退職給付債務に関する事項

(単位：百万円)

		平成 24 年 3 月 31 日現在
退職給付債務	(A)	△ 936,015
年金資産	(B)	869,308
未積立退職給付債務	(C) = (A) + (B)	△ 66,707
未認識数理計算上の差異	(D)	259,767
未認識過去勤務債務	(E)	△ 4,951
連結貸借対照表計上額の純額	(F) = (C) + (D) + (E)	188,108
前払年金費用	(G)	211,874
退職給付引当金	(F) - (G)	△ 23,766

(注) 一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用に関する事項

(単位：百万円)

		平成 23 年度
勤務費用		21,330
利息費用		22,950
期待運用収益		△ 26,805
数理計算上の差異の費用処理額		38,974
過去勤務債務の費用処理額		△ 5,308
その他(臨時に支払った割増退職金等)		4,509
退職給付費用		55,651

(注) 1. 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、主として「勤務費用」に含めて計上しております。

2. 確定拠出年金への掛金支払額は、「その他」に含めて計上しております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

		平成 23 年度
(1) 割引率	当行及び国内連結子会社	1.15%～2.5%
	在外連結子会社	4.7%～7.0%
(2) 期待運用収益率	当行及び国内連結子会社	0%～4.1%
	在外連結子会社	3.8%～5.5%
(3) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	
(4) 過去勤務債務の額の処理年数	主として9年(その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数による定額法により損益処理することとしている)	
(5) 数理計算上の差異の処理年数	主として9年(各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生の際連結会計年度から損益処理することとしている)	

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

(単位：百万円)

	平成23年度
営業経費	2

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

連結子会社である関西アーバン銀行

(1) スtock・オプションの内容

決議年月日	平成13年6月28日	平成14年6月27日	平成15年6月27日	平成16年6月29日	平成17年6月29日	平成18年6月29日	平成18年6月29日
付与対象者の区分及び人数(人)	役員 45	役員 44	役員 65	役員 174	役員 183	取締役 9	取締役を兼務しない 執行役員 14 使用人 46
ストック・オプションの数(株) ^(注)	普通株式 238,000	普通株式 234,000	普通株式 306,000	普通株式 399,000	普通株式 464,000	普通株式 162,000	普通株式 115,000
付与日	平成13年7月31日	平成14年7月31日	平成15年7月31日	平成16年7月30日	平成17年7月29日	平成18年7月31日	平成18年7月31日
権利確定条件	付されていない						
対象勤務期間	定めがない						
権利行使期間	平成15年6月29日から 平成23年6月28日まで	平成16年6月28日から 平成24年6月27日まで	平成17年6月28日から 平成25年6月27日まで	平成18年6月30日から 平成26年6月29日まで	平成19年6月30日から 平成27年6月29日まで	平成20年6月30日から 平成28年6月29日まで	平成20年6月30日から 平成28年6月29日まで

決議年月日	平成19年6月28日	平成19年6月28日	平成20年6月27日	平成21年6月26日
付与対象者の区分及び人数(人)	取締役 10	取締役を兼務しない 執行役員 14 使用人 48	取締役 9 取締役を兼務しない 執行役員 16 使用人 45	取締役 11 取締役を兼務しない 執行役員 14 使用人 57
ストック・オプションの数(株) ^(注)	普通株式 174,000	普通株式 112,000	普通株式 289,000	普通株式 350,000
付与日	平成19年7月31日	平成19年7月31日	平成20年7月31日	平成21年7月31日
権利確定条件	付されていない	付されていない	付されていない	付されていない
対象勤務期間	定めがない	定めがない	定めがない	定めがない
権利行使期間	平成21年6月29日から 平成29年6月28日まで	平成21年6月29日から 平成29年6月28日まで	平成22年6月28日から 平成30年6月27日まで	平成23年6月27日から 平成31年6月26日まで

(注)株式数に換算して記載しております。

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(平成24年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

① スtock・オプションの数

(単位：株)

決議年月日	平成13年6月28日	平成14年6月27日	平成15年6月27日	平成16年6月29日	平成17年6月29日	平成18年6月29日	平成18年6月29日
権利確定前							
前連結会計年度末	—	—	—	—	—	—	—
付与	—	—	—	—	—	—	—
失効	—	—	—	—	—	—	—
権利確定	—	—	—	—	—	—	—
未確定残	—	—	—	—	—	—	—
権利確定後							
前連結会計年度末	94,000	126,000	210,000	302,000	431,000	162,000	115,000
権利確定	—	—	—	—	—	—	—
権利行使	10,000	14,000	—	—	—	—	—
失効	84,000	6,000	18,000	17,000	39,000	—	—
未行使残	—	106,000	192,000	285,000	392,000	162,000	115,000

(単位：株)

決議年月日	平成19年6月28日	平成19年6月28日	平成20年6月27日	平成21年6月26日
権利確定前				
前連結会計年度末	—	—	—	350,000
付与	—	—	—	—
失効	—	—	—	—
権利確定	—	—	—	350,000
未確定残	—	—	—	—
権利確定後				
前連結会計年度末	174,000	112,000	289,000	—
権利確定	—	—	—	350,000
権利行使	—	—	—	—
失効	—	—	—	—
未行使残	174,000	112,000	289,000	350,000

② 単価情報

(単位：円)

決議年月日	平成13年6月28日	平成14年6月27日	平成15年6月27日	平成16年6月29日	平成17年6月29日	平成18年6月29日	平成18年6月29日
権利行使価格	155	131	179	202	313	490	490
行使時平均株価	143	145	—	—	—	—	—
付与日における公正な評価単価	—	—	—	—	—	138	138

(単位:円)

決議年月日	平成19年6月28日	平成19年6月28日	平成20年6月27日	平成21年6月26日
権利行使価格	461	461	302	193
行使時平均株価	—	—	—	—
付与日における公正な評価単価	96	96	37	51

(3) ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位:百万円)

平成24年3月31日現在	
繰延税金資産	
貸倒引当金	449,440
税務上の繰越欠損金	293,259
有価証券償却	232,608
貸出金償却	105,130
退職給付引当金	59,294
その他有価証券評価差額金	50,746
繰延ヘッジ損益	17,098
減価償却費	6,943
その他	162,797
繰延税金資産小計	1,377,319
評価性引当額	△831,217
繰延税金資産合計	546,101
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△128,901
退職給付信託設定益	△36,812
レバレッジドリース	△19,692
退職給付信託返還有価証券	△9,298
子会社の留保利益金	△5,683
その他	△57,932
繰延税金負債合計	△258,321
繰延税金資産の純額	287,780

2. 当行の法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の原因となった主な項目別の内訳

(単位:%)

当行の法定実効税率	40.63
(調整)	
評価性引当額	△12.89
受取配当金益金不算入	△1.27
段階取得に係る差益	△1.16
平成23年度税制改正に伴う税率変更	3.90
持分法投資損益	1.74
その他	△2.03
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.92

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の修正額

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、当行及び国内連結子会社の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する平成24年度以降の法定実効税率が変更され、「繰延税金資産」は15,617百万円減少し、「その他有価証券評価差額金」は16,775百万円増加し、「繰延ヘッジ損益」は2,430百万円減少し、当連結会計年度に計上された「法人税等調整額」は34,258百万円増加しております。また、「再評価に係る繰延税金負債」は5,613百万円減少し、「土地再評価差額金」は同額増加しております。

なお、上記のうち、当行においては、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、従来の40.63%から、平成24年4月1日に開始する事業年度から平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異等については37.94%に、平成27年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異等については35.57%となります。この税率変更により、「繰延税金資産」は6,592百万円減少し、「その他有価証券評価差額金」は16,479百万円増加し、「繰延ヘッジ損益」は2,417百万円減少し、当事業年度に計上された「法人税等調整額」は20,655百万円増加しております。また、「再評価に係る繰延税金負債」は5,538百万円減少し、「土地再評価差額金」は同額増加しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産関係について記載すべき重要なものはありません。

(関連当事者情報)

1. 関連当事者との取引

関連当事者との取引について記載すべき重要なものはありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

株式会社三井住友フィナンシャルグループ(東京、大阪、名古屋、ニューヨーク証券取引所に上場)

(企業結合等関係)

(取得による企業結合)

プロミス株式会社に対する公開買付け及びプロミス株式会社の第三者割当増資の引受けによる連結子会社化

当行は、プロミス株式会社(以下、「プロミス」)の普通株式、株式報酬型ストック・オプション第1回新株予約権、株式報酬型ストック・オプション第2回新株予約権、株式報酬型ストック・オプション第3回新株予約権及び2015年満期ユーロ円建取得条項付転換社債型新株予約権付社債について、公開買付けを実施いたしました。また、当行の親会社である株式会社三井住友フィナンシャルグループ(以下、「SMFG」)はプロミスが平成23年12月26日に行った第三者割当増資を全額引き受けいたしました。これにより、当行は当行の持分法適用関連会社でありましたプロミスを連結子会社といたしました。取得による企業結合の概要は、次のとおりであります。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及び事業の内容

プロミス(事業の内容:消費者金融業)

(2) 企業結合を行った主な理由

当行及びSMFGは、プロミスとSMFGグループ各社との連携を一層強化し、プロミスの業界における競争優位の確立を通じてSMFGグループにおけるプロミスを中心としたコンシューマーファイナンス事業の拡大を効果的に実現するため、プロミスの財務基盤の強化、並びにグループ一体でのより迅速かつ機動的な意思決定が可能となる体制の整備が必要との認識から、SMFGはプロミスを完全子会社化することを基本方針としております。そのため、当連結会計年度において、当行によるプロミスに対する公開買付け及びSMFGによるプロミスの第三者割当増資の引受けにより、同社を連結子会社化いたしました。

(3) 企業結合日

平成23年12月7日

- (4) 企業結合の法的形式
当行によるプロミスに対する公開買付け及びSMFGによるプロミスの第三者割当増資の引受けによる連結子会社化
- (5) 結合後企業の名称
株式会社三井住友銀行
- (6) 取得した議決権比率
企業結合直前に所有していた議決権比率 22%
公開買付け等により追加取得した議決権比率 12%
取得後の議決権比率 34%
- (7) 取得企業を決定するに至った主な根拠
当行及びSMFGがプロミスの議決権の過半数を取得し、連結子会社化したことによる。

2. 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで
平成23年12月31日をみなし取得日としているため、連結損益計算書上、平成23年4月1日から平成23年12月31日までの被取得企業に係る損益は、持分法投資損益として計上しております。

3. 被取得企業の取得原価及びその内訳

企業結合直前に所有していたプロミスの普通株式の時価	21,699百万円
公開買付けにより追加取得したプロミスの普通株式の時価	70,995百万円
取得に直接要した支出額	344百万円
被取得企業の取得原価	93,039百万円

4. 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

被取得企業の取得原価	93,039百万円
取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額	67,988百万円
差額(段階取得に係る差益)	25,050百万円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

- (1) 発生したのれん金額 39,222百万円
- (2) 発生原因
取得原価とプロミスに係る当行持分相当額との差額をのれんとして処理しております。
- (3) 償却方法及び償却期間
20年間で均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

(1) 資産の額	
資産合計	1,671,681百万円
うち貸出金	795,148百万円
うち支払承諾見返	564,528百万円
(2) 負債の額	
負債合計	1,511,980百万円
うち借入金	300,884百万円
うち利息返還損失引当金	367,220百万円
うち支払承諾	564,528百万円

7. 企業結合が連結会計年度開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

- (1) 企業結合が連結会計年度開始の日に完了したと仮定して算定された経常収益及び損益情報と取得企業の連結損益計算書における経常収益及び損益情報との差額
- | | |
|-------|-------------|
| 経常収益 | 143,349百万円 |
| 経常利益 | △151,981百万円 |
| 当期純利益 | △64,981百万円 |
- (注)一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。
- (2) 概算額の算定方法及び重要な前提条件
プロミス及びその連結子会社の平成23年4月1日から平成23年12月31日までの経営成績に、当該期間に係るのれん償却額等を加味して算出しております。なお、実際に企業結合が連結会計年度開始の日に完了した場合の経営成績を示すものではありません。
また、上記情報につきましては、有限責任 あずさ監査法人の監査証明を受けておりません。

(1株当たり情報)

	(単位：円)
1株当たり純資産額	53,960.98
1株当たり当期純利益金額	5,024.23
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	5,023.33

(注) 1. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

1株当たり当期純利益金額	
当期純利益	533,816百万円
普通株主に帰属しない金額 (うち優先配当額)	—百万円 (—百万円)
普通株式に係る当期純利益	533,816百万円
普通株式の期中平均株式数	106,248千株
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	
当期純利益調整額	△95百万円
(うち連結子会社及び持分法適用関連会社の 潜在株式による調整額)	(△95百万円)
普通株式増加数	—千株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	—

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

純資産の部の合計額	7,276,706百万円
純資産の部の合計額から控除する金額	1,543,439百万円
(うち優先株式)	(—百万円)
(うち優先配当額)	(—百万円)
(うち新株予約権)	(94百万円)
(うち少数株主持分)	(1,543,345百万円)
普通株式に係る期末の純資産額	5,733,267百万円
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数	106,248千株

(追加情報)

平成23年4月1日以後開始する連結会計年度から、改正後の「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第9号)が適用されることになったことに伴い、当連結会計年度から同会計基準等を適用しております。

(重要な後発事象)

(子会社の企業結合関係)
株式会社三井住友フィナンシャルグループによるプロミス株式会社の完全子会社化

当行の親会社である株式会社三井住友フィナンシャルグループ(以下、「SMFG」)は、当行の連結子会社であるプロミス株式会社(以下、「プロミス」)を、平成24年4月1日を効力発生日とする株式交換(以下、「本株式交換」)により完全子会社といたしました。これにより、当行はプロミスを当行の連結子会社から除外いたしました。子会社の企業結合の概要は、次のとおりであります。

- 子会社を含む各結合当事企業の名称及び事業の内容
結合企業 SMFG(事業の内容：銀行持株会社)
被結合企業 プロミス(事業の内容：消費者金融業)
- 企業結合を行った主な理由
SMFGは、プロミスとSMFGグループ各社との連携を一層強化し、プロミスの業界における競争優位の確立を通じてSMFGグループにおけるプロミスを軸としたコンシューマーファイナンス事業の拡大を効果的に実現するため、プロミスの財務基盤の強化、並びにグループ一体でのより迅速かつ機動的な意思決定が可能となる体制の整備が必要との認識から、プロミスを本株式交換によりSMFGの完全子会社といたしました。
- 企業結合日
平成24年4月1日
- 取引の概要
SMFGとプロミスとの間の株式交換に伴い、プロミスを当行の連結子会社から除外いたしました。

有価証券関係 (平成23年度 自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

有価証券の範囲

- ※1. 連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「特定取引資産」中の商品有価証券及び短期社債、「現金預け金」中の譲渡性預け金並びに「買入金銭債権」中の貸付債権信託受益権等も含めて記載しております。
- ※2. 「子会社株式及び関連会社株式」については、財務諸表における注記事項として記載しております。

(1) 売買目的有価証券

(単位：百万円)

	平成24年3月末
連結会計年度の損益に含まれた評価差額	16,941

(2) 満期保有目的の債券

(単位：百万円)

	種類	平成24年3月末		
		連結貸借対照表計上額	時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	国債	4,787,498	4,849,443	61,944
	地方債	175,423	178,243	2,819
	社債	237,208	241,724	4,515
	その他	2,695	2,703	8
	小計	5,202,826	5,272,115	69,288
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	国債	70,020	69,930	△90
	地方債	2,302	2,298	△3
	社債	713	710	△3
	その他	12,402	12,396	△6
	小計	85,438	85,335	△103
合計		5,288,265	5,357,450	69,184

(3) その他有価証券

(単位：百万円)

	種類	平成24年3月末		
		連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	1,152,568	679,941	472,627
	債券	24,461,506	24,344,059	117,447
	国債	21,717,683	21,654,331	63,351
	地方債	289,456	287,307	2,149
	社債	2,454,367	2,402,420	51,947
	その他	4,602,151	4,504,375	97,775
	小計	30,216,226	29,528,376	687,850
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	962,381	1,206,318	△243,936
	債券	3,206,288	3,212,637	△6,348
	国債	2,751,854	2,752,509	△654
	地方債	7,702	7,717	△15
	社債	446,731	452,410	△5,678
	その他	2,453,817	2,500,778	△46,961
	小計	6,622,487	6,919,734	△297,247
合計		36,838,714	36,448,111	390,602

(注) 1. 差額のうち、時価ヘッジの適用により損益に反映させた額は196百万円(収益)であります。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券
(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額
株式	322,638
その他	332,388
合計	655,026

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(4) 当連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券

該当ありません。

(5) 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

(単位：百万円)

種類	平成23年度		
	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	30,626	8,170	△2,497
債券	16,672,590	39,688	△2,586
国債	16,261,807	38,204	△2,115
地方債	178,423	553	△256
社債	232,359	930	△214
その他	15,576,307	143,029	△16,788
合計	32,279,523	190,889	△21,872

(6) 保有目的を変更した有価証券

該当ありません。

(7) 減損処理を行った有価証券

有価証券(子会社株式及び関連会社株式を除く)で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落したのものについては、原則として時価が取得原価まで回復する見込みがないものとみなして、当該時価をもって貸借対照表価額とし、評価差額を当連結会計年度の損失として処理(以下、「減損処理」という)しております。当連結会計年度におけるこの減損処理額は26,838百万円であります。時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に次のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先	時価が取得原価に比べて下落
要注意先	時価が取得原価に比べて30%以上下落
正常先	時価が取得原価に比べて50%以上下落

なお、破綻先とは破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは破綻先と同等の状況にある発行会社、破綻懸念先とは現在は経営破綻の状況にないが今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは今後の管理に注意を要する発行会社であります。また、正常先とは破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の発行会社であります。

有価証券関係 (平成22年度 自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

有価証券の範囲

- ※1. 連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「特定取引資産」中の商品有価証券及び短期社債、「現金預け金」中の譲渡性預け金並びに「買入金銭債権」中の貸付債権信託受益権等も含めて記載しております。
- ※2. 「子会社株式及び関連会社株式」については、財務諸表における注記事項として記載しております。

(1) 売買目的有価証券

(単位：百万円)

	平成23年3月末
連結会計年度の損益に含まれた評価差額	△6,886

(2) 満期保有目的の債券

(単位：百万円)

	種類	平成23年3月末		
		連結貸借対照表計上額	時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	国債	3,384,266	3,437,088	52,821
	地方債	159,618	162,339	2,721
	社債	237,233	243,070	5,837
	その他	4,193	4,201	8
	小計	3,785,310	3,846,700	61,389
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	国債	379,873	378,410	△1,463
	地方債	11,899	11,860	△39
	社債	1,887	1,878	△9
	その他	12,301	12,282	△19
	小計	405,962	404,430	△1,531
合計		4,191,272	4,251,130	59,857

(3) その他有価証券

(単位：百万円)

	種類	平成23年3月末		
		連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	1,307,543	833,759	473,783
	債券	12,349,536	12,242,117	107,418
	国債	9,468,315	9,423,084	45,230
	地方債	199,005	197,609	1,395
	社債	2,682,215	2,621,423	60,792
	その他	3,100,672	3,001,018	99,653
	小計	16,757,752	16,076,896	680,855
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	882,419	1,083,162	△200,742
	債券	13,191,763	13,223,633	△31,870
	国債	12,701,891	12,729,163	△27,271
	地方債	173,886	175,423	△1,536
	社債	315,985	319,047	△3,062
	その他	4,440,340	4,582,613	△142,273
	小計	18,514,523	18,889,409	△374,886
合計		35,272,275	34,966,306	305,968

(注) 1. 差額のうち、時価ヘッジの適用により損益に反映させた額は1,153百万円(収益)であります。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券
(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額
株式	257,447
その他	315,833
合計	573,280

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(4) 当連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券

該当ありません。

(5) 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

(単位：百万円)

種類	平成22年度		
	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	45,800	10,652	△3,196
債券	18,053,842	71,653	△32,572
国債	17,690,062	69,180	△31,297
地方債	137,365	907	△633
社債	226,414	1,566	△641
その他	18,645,754	152,528	△16,198
合計	36,745,397	234,834	△51,968

(6) 保有目的を変更した有価証券

該当ありません。

(7) 減損処理を行った有価証券

有価証券(子会社株式及び関連会社株式を除く)で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落したものについては、原則として時価が取得原価まで回復する見込みがないものとみなして、当該時価をもって貸借対照表価額とし、評価差額を当連結会計年度の損失として処理(以下、「減損処理」という)しております。当連結会計年度におけるこの減損処理額は105,915百万円であります。時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に次のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先 時価が取得原価に比べて下落
 要注意先 時価が取得原価に比べて30%以上下落
 正常先 時価が取得原価に比べて50%以上下落

なお、破綻先とは破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは破綻先と同等の状況にある発行会社、破綻懸念先とは現在は経営破綻の状況にないが今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは今後の管理に注意を要する発行会社であります。また、正常先とは破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の発行会社であります。

金銭の信託関係

(平成23年度 自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

(1) 運用目的の金銭の信託

(単位: 百万円)

	平成24年3月末
	当連結会計年度の損益に含まれた評価差額
運用目的の金銭の信託	△2

(2) 満期保有目的の金銭の信託

該当ありません。

(3) その他の金銭の信託

(運用目的及び満期保有目的以外の金銭の信託)

(単位: 百万円)

	平成24年3月末				
	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額	うち	
				連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの
その他の金銭の信託	16,315	16,362	△46	—	△46

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、当連結会計年度末日における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。
2. 「うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの」「うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの」はそれぞれ「差額」の内訳であります。

金銭の信託関係

(平成22年度 自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

(1) 運用目的の金銭の信託

(単位: 百万円)

	平成23年3月末
	当連結会計年度の損益に含まれた評価差額
運用目的の金銭の信託	1

(2) 満期保有目的の金銭の信託

該当ありません。

(3) その他の金銭の信託

(運用目的及び満期保有目的以外の金銭の信託)

(単位: 百万円)

	平成23年3月末				
	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額	うち	
				連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの
その他の金銭の信託	17,885	17,843	42	42	—

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、当連結会計年度末日における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。
2. 「うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの」「うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの」はそれぞれ「差額」の内訳であります。

その他有価証券評価差額金

(平成23年度 自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

連結貸借対照表に計上されている「その他有価証券評価差額金」の内訳は、次のとおりであります。

(単位: 百万円)

	平成24年3月末
評価差額	390,261
その他有価証券	390,308
その他の金銭の信託	△46
(△)繰延税金負債	108,554
その他有価証券評価差額金(持分相当額調整前)	281,707
(△)少数株主持分相当額	2,842
(+)持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	7,549
その他有価証券評価差額金	286,413

- (注) 1. 時価ヘッジの適用により損益に反映させた額196百万円(収益)は、その他有価証券の評価差額より控除しております。
2. その他有価証券の評価差額は時価のない外貨建有価証券の為替換算差額(損益処理分を除く)を含んでおります。

その他有価証券評価差額金

(平成22年度 自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

連結貸借対照表に計上されている「その他有価証券評価差額金」の内訳は、次のとおりであります。

(単位: 百万円)

	平成23年3月末
評価差額	304,922
その他有価証券	304,880
その他の金銭の信託	42
(△)繰延税金負債	77,203
その他有価証券評価差額金(持分相当額調整前)	227,718
(△)少数株主持分相当額	417
(+)持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	12,416
その他有価証券評価差額金	239,717

- (注) 1. 時価ヘッジの適用により損益に反映させた額1,153百万円(収益)は、その他有価証券の評価差額より控除しております。
2. その他有価証券の評価差額は時価のない外貨建有価証券の為替換算差額(損益処理分を除く)を含んでおります。

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成24年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	金利先物				
	売建	13,701,646	2,323,383	△9,067	△9,067
	買建	12,963,619	1,931,357	9,046	9,046
	金利オプション				
	売建	16,413	—	△1	△1
	買建	49,239	—	5	5
店頭	金利先渡契約				
	売建	4,433,489	37,687	△166	△166
	買建	4,386,457	68,390	△148	△148
	金利スワップ				
	受取固定・支払変動	169,758,863	132,573,198	5,648,845	5,648,845
	受取変動・支払固定	173,684,563	132,107,761	△5,573,481	△5,573,481
	受取変動・支払変動	25,888,092	16,402,974	△3,475	△3,475
	金利スワップション				
	売建	4,070,533	2,032,320	△56,297	△56,297
	買建	3,114,421	1,987,178	49,318	49,318
	キャップ				
	売建	15,725,631	11,272,029	△6,675	△6,675
	買建	6,947,188	3,066,687	6,717	6,717
	フロアー				
	売建	877,557	250,823	△4,549	△4,549
買建	7,991,968	1,984,956	4,192	4,192	
その他					
売建	—	—	—	—	
買建	3,589,273	1,798,757	19,137	19,137	
合計			86,603	86,603	

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。
2. 時価の算定
取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

(2) 通貨関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成24年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	通貨先物				
	売建	295,297	—	—	—
	買建	1,119,349	—	—	—
店頭	通貨スワップ	19,742,032	12,527,350	△396,973	△38,094
	通貨スワップション				
	売建	654,616	473,930	△16,082	△16,082
	買建	702,295	530,318	27,032	27,032
	為替予約	36,161,471	2,989,559	84,218	84,218
	通貨オプション				
	売建	2,904,319	1,623,064	△229,554	△229,554
	買建	2,744,179	1,504,605	315,643	315,643
	合計			△215,715	143,163

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。
2. 時価の算定
取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

(3) 株式関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成24年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	株式指数先物				
	売建	297,794	—	△6,384	△6,384
	買建	70,895	—	914	914
	株式指数オプション				
	売建	390	—	△1	△1
	買建	240	—	2	2
店頭	有価証券店頭オプション				
	売建	194,256	192,842	△49,022	△49,022
	買建	197,260	191,432	49,202	49,202
	有価証券店頭指数等先渡取引				
	売建	—	—	—	—
	買建	21,965	—	822	822
	有価証券店頭指数等スワップ				
株価指数変化率受取・金利支払	8,795	7,295	△154	△154	
金利受取・株価指数変化率支払	9,495	7,895	152	152	
合計			△4,468	△4,468	

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。
2. 時価の算定
取引所取引につきましては、東京証券取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、オプション価格計算モデル等により算定しております。

(4) 債券関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成24年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	債券先物				
	売建	2,803,087	—	△1,427	△1,427
	買建	2,564,017	—	1,788	1,788
	債券先物オプション				
	売建	92,483	—	35	35
	買建	181,010	—	△53	△53
店頭	債券先渡契約				
	売建	1,150	—	126	126
	買建	2,924	—	30	30
	債券店頭オプション				
	売建	38,894	—	△53	△53
	買建	38,894	—	115	115
合計			562	562	

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。
2. 時価の算定
取引所取引につきましては、東京証券取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

(5) 商品関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成24年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	商品先物				
	売建	5,949	—	107	107
	買建	5,788	—	△116	△116
店頭	商品スワップ				
	固定価格受取・変動価格支払	139,982	117,754	△29,523	△29,523
	変動価格受取・固定価格支払	111,479	91,310	57,246	57,246
	変動価格受取・変動価格支払	13,822	13,014	1,500	1,500
	商品オプション				
	売建	12,779	10,821	△223	△223
	買建	4,929	4,177	58	58
合計			29,049	29,049	

- (注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。
 2. 時価の算定
 取引所取引につきましては、ニューヨーク・マーカンタイル取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、取引対象物の価格、契約期間等の構成要素に基づき算定しております。
 3. 商品は燃料及び金属等に係るものであります。

(6) クレジットデリバティブ取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成24年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
店頭	クレジット・デフォルト・オプション				
	売建	793,663	649,116	△18,420	△18,420
	買建	783,152	575,684	19,385	19,385
合計			964	964	

- (注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。
 2. 時価の算定
 割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。
 3. 「売建」は信用リスクの引受取引、「買建」は信用リスクの引渡取引であります。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類別、ヘッジ会計の方法別の連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	平成24年3月末		
			契約額等	うち1年超	時価
原則的処理方法	金利先物	貸出金、その他有価証券(債券)、預金、譲渡性預金等の有利息の金融資産・負債	739,170	—	△146
			7,306,784	356,484	△96
	金利スワップ	受取固定・支払変動	35,870,955	29,120,667	31,340
			24,074,085	18,722,477	443,546
			11,767,524	10,388,845	△412,496
	金利スワップ	受取変動・支払固定	29,345	9,345	290
			330,000	330,000	2,719
			—	—	—
	キャップ	売建	3,340	3,340	265
			3,340	3,340	△265
—			—	—	
フロアー	売建	—	—	—	
		—	—	—	
		7,850	—	0	
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	金利スワップ	貸出金	1,641	—	△43
			1,361	—	△39
			280	—	△3
金利スワップの特例処理	金利スワップ	貸出金、借入金	105,262	58,915	(注)3
			105,262	58,915	
合計					33,773

- (注) 1. 主として「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)に基づき、繰延ヘッジによっております。
 2. 時価の算定
 取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。
 3. 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている借入金等と一体として処理されているため、その時価は「(金融商品関係)」の当該借入金等の時価に含めて記載しております。

(2) 通貨関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	平成24年3月末		
			契約額等	うち1年超	時価
原則的処理方法	通貨スワップ	外貨建の貸出金、その他有価証券(債券)、預金、外貨預金等	3,315,230	2,666,423	278,690
			244,111	—	189
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	通貨スワップ	預金	34,873	30,755	△389
為替予約等の振当処理	通貨スワップ	その他有価証券(債券)	60,500	—	(注)3
			3,179	3,179	
合計					278,489

- (注) 1. 主として「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)に基づき、繰延ヘッジによっております。
 2. 時価の算定
 割引現在価値により算定しております。
 3. 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされているその他有価証券等と一体として処理されているため、その時価は金融商品関係の当該その他有価証券等の時価に含めて記載しております。

(3) 株式関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	平成24年3月末		
			契約額等	うち1年超	時価
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	有価証券店頭指数等スワップ	その他有価証券(株式)	—	—	—
			—	—	—
			13,056	9,175	△335
合計					△335

- (注) 時価の算定
 割引現在価値により算定しております。

デリバティブ取引関係（平成22年度 自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成23年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	金利先物				
	売建	36,061,333	2,080,554	△13,057	△13,057
	買建	33,791,946	2,088,859	12,150	12,150
	金利オプション				
	売建	16,628	—	△1	△1
	買建	420,747	—	△12	△12
店頭	金利先渡契約				
	売建	—	—	—	—
	買建	19,504,719	314,376	△704	△704
	金利スワップ	356,882,317	267,293,301	95,096	95,096
	受取固定・支払変動	158,333,988	120,027,611	3,822,736	3,822,736
	受取変動・支払固定	170,754,241	129,212,056	△3,725,048	△3,725,048
	受取変動・支払変動	27,653,869	17,913,499	△1,507	△1,507
	金利スワップオプション				
	売建	3,391,868	2,347,307	△75,573	△75,573
	買建	2,924,852	2,076,786	72,362	72,362
	キャップ				
	売建	20,895,278	5,852,048	△10,084	△10,084
	買建	9,178,858	2,985,925	7,603	7,603
	フロアー				
売建	882,481	278,959	△10,006	△10,006	
買建	8,551,945	8,419,741	7,460	7,460	
その他					
売建	578,528	333,204	△14,089	△14,089	
買建	1,678,256	937,592	42,041	42,041	
合計			113,182	113,182	

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

(2) 通貨関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成23年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
店頭	通貨スワップ	20,597,671	12,937,360	△392,609	△28,299
	通貨スワップオプション				
	売建	711,681	672,001	△23,439	△23,439
	買建	948,904	695,468	38,789	38,789
	為替予約	50,693,564	19,400,525	114,143	114,143
	通貨オプション				
	売建	3,054,155	1,996,329	△300,544	△300,544
	買建	2,935,419	1,894,947	420,803	420,803
合計			△142,857	221,452	

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

(3) 株式関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成23年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	株式指数先物				
	売建	128,932	—	1,694	1,694
	買建	46,212	—	283	283
	株式指数オプション				
	売建	6,200	—	△203	△203
	買建	4,456	—	116	116
店頭	有価証券店頭オプション				
	売建	201,781	200,642	△41,359	△41,359
	買建	203,957	200,642	41,430	41,430
合計			1,961	1,961	

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引につきましては、東京証券取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、オプション価格計算モデル等により算定しております。

(4) 債券関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成23年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	債券先物				
	売建	1,223,662	—	△1,580	△1,580
	買建	1,119,982	—	550	550
	債券先物オプション				
	売建	29,100	—	27	27
	買建	58,800	—	△31	△31
店頭	債券先渡契約				
	売建	2,994	—	48	48
	買建	33,313	32,096	739	739
	債券店頭オプション				
	売建	24,843	—	△162	△162
	買建	24,843	—	129	129
合計			△278	△278	

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引につきましては、東京証券取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

(5) 商品関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成23年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	商品先物				
	売建	4,566	—	19	19
	買建	5,573	—	△24	△24
店頭	商品スワップ				
	固定価格受取・変動価格支払	197,189	167,741	△52,883	△52,883
	変動価格受取・固定価格支払	143,052	115,341	94,816	94,816
	変動価格受取・変動価格支払	25	—	0	0
	商品オプション				
	売建	18,952	14,871	△43	△43
	買建	7,742	6,067	308	308
合計			42,194	42,194	

- (注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。
2. 時価の算定
取引所取引につきましては、ニューヨーク・マーカンタイル取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、取引対象物の価格、契約期間等の構成要素に基づき算定しております。
3. 商品は燃料及び金属等に係るものであります。

(6) クレジットデリバティブ取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成23年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
店頭	クレジット・デフォルト・オプション				
	売建	1,004,667	695,622	△12,098	△12,098
	買建	1,107,470	602,404	14,148	14,148
合計				2,049	2,049

- (注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。
2. 時価の算定
割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。
3. 「売建」は信用リスクの引受取引、「買建」は信用リスクの引渡取引であります。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類別、ヘッジ会計の方法別の連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	平成23年3月末			
			契約額等	うち1年超	時価	
原則的処理方法	金利先物	貸出金、その他有価証券(債券)、預金、譲渡性預金等の有利息の金融資産・負債	1,080,929	1,080,929	△421	
			9,861,263	—	△223	
	金利スワップ	受取固定・支払変動	36,369,686	30,731,720	22,465	
			24,170,619	19,172,729	314,269	
		受取変動・支払固定	12,169,150	11,529,574	△292,416	
			29,916	29,416	611	
	金利スワップション	売建	—	460,983	460,899	1,085
				—	—	—
	キャップ	売建	—	2,562	2,562	410
				2,562	2,562	△410
フロアー	売建	—	—	—	—	
			7,850	7,850	0	
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	金利スワップ	貸出金	3,832	2,354	△108	
			3,832	2,354	△108	
金利スワップの特例処理	金利スワップ	貸出金、借入金、社債	36,501	34,826	(注)3	
			36,501	34,826		
合計					22,796	

- (注) 1. 主として「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)に基づき、繰延ヘッジによっております。
2. 時価の算定
取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。
3. 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている借入金等と一体として処理されているため、その時価は「(金融商品関係)」の当該借入金等の時価に含めて記載しております。

(2) 通貨関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	平成23年3月末		
			契約額等	うち1年超	時価
原則的処理方法	通貨スワップ	外貨建の貸出金、その他有価証券(債券)、預金、外国債等	2,776,330	1,882,407	338,351
			9,552	—	△173
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	通貨スワップ	預金	11,769	10,929	△245
為替予約等の振当処理	為替予約	預金	103,553	3,179	(注)3
合計					337,933

- (注) 1. 主として「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)に基づき、繰延ヘッジによっております。
2. 時価の算定
割引現在価値により算定しております。
3. 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている預金等と一体として処理されているため、その時価は金融商品関係の当該預金等の時価に含めて記載しております。

(3) 株式関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	平成23年3月末		
			契約額等	うち1年超	時価
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	有価証券店頭指数等スワップ 株価指数変化率受取・金利支払 金利受取・株価指数変化率支払	その他有価証券(株式)	—	—	—
合計			21,521	11,078	△623
					△623

- (注) 時価の算定
割引現在価値により算定しております。

1. セグメント情報

(1) 報告セグメントの概要

当行グループの報告セグメントは、当行グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定や業績評価のために、定期的に経営成績等の報告を受ける対象となっているものであります。

当行グループは、銀行業務のほか、証券業務、リース業務、クレジットカード業務、消費者金融業務、システム開発・情報処理業務などの金融サービスに係る事業を行っており、そのうち、主要業務である「銀行業」及び「証券業」を独立した報告セグメントとしております。また、その他の業務については集約して「その他事業」としてしております。

なお、「銀行業」には、預金業務、貸出業務、商品有価証券売買業務、有価証券投資業務、内国為替業務、外国為替業務、社債受託及び登録業務、信託業務、証券投資信託・保険商品の窓口販売業務等が含まれますが、当行においては、顧客マーケットに対応した「個人部門」、「法人部門」、「企業金融部門」及び「国際部門」と金融マーケットに対応した「市場営業部門」の5部門に分類した収益管理を行っております。

(2) 報告セグメントごとの利益又は損失の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。持分法適用会社の損益につきましては、経常利益に持分比率を乗じた金額を「その他損益」に含めて計上しております。

なお、資産につきましては、事業セグメント別の管理を行っておりません。

(3) 報告セグメントごとの利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	平成23年度									
	銀行業								その他	小計
	三井住友銀行									
	個人部門	法人部門	企業金融部門	国際部門	市場営業部門	本社管理				
業務粗利益	1,532,511	383,666	422,825	212,650	197,436	319,333	△3,398	231,326	1,763,837	
金利収益	956,878	326,923	256,800	136,592	111,625	123,120	1,818	156,627	1,113,505	
非金利収益	575,632	56,743	166,025	76,058	85,811	196,213	△5,217	74,698	650,331	
経費	△719,495	△289,506	△222,756	△38,214	△64,941	△19,206	△84,872	△131,686	△851,182	
うち減価償却費	△75,503	△27,400	△23,177	△5,558	△7,102	△3,443	△8,823	△10,354	△85,858	
その他損益	—	—	—	—	—	—	—	△20,553	△20,553	
連結業務純益	813,015	94,160	200,069	174,436	132,495	300,127	△88,271	79,086	892,101	

	平成23年度				
	証券業			その他 事業等	合計
	SMBC 日興証券	その他	小計		
業務粗利益	221,254	8,634	229,888	189,884	2,183,610
金利収益	△2,536	689	△1,846	130,914	1,242,572
非金利収益	223,790	7,944	231,735	58,970	941,037
経費	△180,076	△5,392	△185,468	△60,844	△1,097,494
うち減価償却費	△3,044	△348	△3,392	△13,714	△102,965
その他損益	△1,206	△878	△2,085	△131,006	△153,644
連結業務純益	39,970	2,363	42,334	△1,965	932,470

- (注) 1. 損失または減益の場合には、金額頭に△を付しております。
 2. 連結業務純益＝三井住友銀行業務純益＋他の連結会社の経常利益(臨時要因調整後)＋持分法適用会社経常利益×持分割合－内部取引(配当等)
 3. その他損益＝連結子会社の営業外損益等＋持分法適用会社経常利益×持分割合等
 4. SMBC日興証券の連結業務純益の欄には、営業利益を示しており、営業外損益は「証券業」のその他に含めております。
 5. その他事業等には、各セグメント間の内部取引として消去すべきものを含めております。

(4) 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	平成23年度
連結業務純益	932,470
三井住友銀行の与信関係費用	△58,647
三井住友銀行の株式等損益	△15,153
三井住友銀行の退職給付会計未認識債務償却	△31,632
報告セグメント対象外の連結子会社経常利益	64,930
報告セグメント対象外ののれん償却額	△9,344
持分法適用会社損益調整	△1,632
その他	△23,071
連結損益計算書の経常利益	857,919

- (注) 1. 損失または減益の場合には、金額頭に△を付しております。
 2. 与信関係費用＝貸倒引当金繰入額(除く一般貸倒引当金換算差)＋貸出金償却＋貸出債権売却損等－償却債権取立益
 3. 株式等損益＝株式等売却益－株式等売却損－株式等償却
 4. 持分法適用会社損益調整＝持分法適用会社当期純利益×持分割合－持分法適用会社経常利益×持分割合

2. 関連情報

(1) サービスごとの情報

(単位：百万円)

	平成23年度			
	銀行業	証券業	その他 事業	合計
外部顧客に対する経常収益	2,264,270	237,172	186,468	2,687,911

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

(2) 地域ごとの情報

① 経常収益

(単位：百万円)

平成23年度				
日本	米州	欧州・中近東	アジア・ オセアニア	合計
2,223,790	146,872	115,788	201,460	2,687,911

- (注) 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。
 2. 当行(海外店を除く)及び国内連結子会社の取引に係る経常収益は「日本」に分類しております。また、当行の海外店及び在外連結子会社の取引に係る経常収益は、海外店及び各社の所在地を基礎とし、地理的な近接度等を考慮の上、「米州」「欧州・中近東」「アジア・オセアニア」に分類しております。
 3. 「米州」にはアメリカ合衆国、ブラジル連邦共和国、カナダ等が、「欧州・中近東」には英国、ドイツ連邦共和国、フランス共和国等が、「アジア・オセアニア」には中華人民共和国、シンガポール共和国、オーストラリア連邦等が属しております。

② 有形固定資産

(単位：百万円)

平成23年度				
日本	米州	欧州・中近東	アジア・ オセアニア	合計
829,261	10,759	5,150	3,901	849,074

(3) 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(単位：百万円)

	平成23年度			
	銀行業	証券業	その他 事業	合計
減損損失	3,264	118	104	3,488

4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

(単位：百万円)

	平成23年度			
	銀行業	証券業	その他 事業	合計
当期償却額	480	9,582	521	10,584
当期末残高	8,733	164,722	38,732	212,188

5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当ありません。

6. 報告セグメントごとの与信関係費用に関する情報

(単位：百万円)

	平成23年度			
	銀行業	証券業	その他 事業等	合計
与信関係費用	83,903	1,206	6,591	91,701

- (注) 1. 与信関係費用＝貸倒引当金繰入額＋貸出金償却＋貸出債権売却損等－償却債権取立益
 2. その他事業等には、各セグメント間の内部取引として消去すべきものを含めております。

1. セグメント情報

(1) 報告セグメントの概要

当行グループの報告セグメントは、当行グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定や業績評価のために、定期的に経営成績等の報告を受ける対象となっているものであります。

当行グループは、銀行業務のほか、証券業務、リース業務、クレジットカード業務、投融資業務、融資業務、ベンチャーキャピタル業務などの金融サービスに係る事業を行っており、そのうち、主要業務である「銀行業」及び「証券業」を独立した報告セグメントとしております。また、その他の業務については集約して「その他事業」としてしております。

なお「銀行業」には、預金業務、貸出業務、商品有価証券売買業務、有価証券投資業務、内国為替業務、外国為替業務、金融先物取引等の受託等業務、社債受託及び登録業務、信託業務、証券投資信託・保険商品の窓口販売業務、証券仲介業務等が含まれますが、当行においては、顧客マーケットに対応した「個人部門」、「法人部門」、「企業金融部門」及び「国際部門」とトレジャリー業務を行う「市場営業部門」の5部門に分類した収益管理を行っております。

(2) 報告セグメントごとの利益又は損失の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。持分法適用会社の損益につきましては、経常利益に持分比率を乗じた金額を「その他損益」に含めて計上しております。

なお、資産につきましては、事業セグメント別の管理を行っておりません。

(3) 報告セグメントごとの利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	平成22年度									
	銀行業								その他	小計
	三井住友銀行									
	個人部門	法人部門	企業金融部門	国際部門	市場営業部門	本社管理				
業務粗利益	1,531,759	387,790	443,862	201,244	186,503	330,720	△18,359	241,752	1,773,512	
金利収益	967,825	337,529	272,866	131,355	107,708	136,318	△17,950	149,761	1,117,586	
非金利収益	563,934	50,261	170,996	69,889	78,795	194,402	△408	91,990	655,925	
経費	△699,197	△290,292	△221,725	△35,986	△57,935	△17,897	△75,362	△134,955	△834,152	
うち減価償却費	△71,030	△26,343	△22,209	△5,252	△6,148	△3,220	△7,858	△10,249	△81,279	
その他損益	—	—	—	—	—	—	—	△34,449	△34,449	
連結業務純益	832,562	97,498	222,137	165,258	128,568	312,823	△93,721	72,348	904,910	

	平成22年度				
	証券業			その他 事業等	合計
	日興 コーディアル 証券	その他	小計		
業務粗利益	205,188	3,711	208,899	133,804	2,116,216
金利収益	△2,722	564	△2,158	104,753	1,220,182
非金利収益	207,911	3,146	211,057	29,051	896,034
経費	△166,645	△3,064	△169,710	△38,633	△1,042,496
うち減価償却費	△2,439	△727	△3,166	△12,114	△96,560
その他損益	—	△4,661	△4,661	△113,554	△152,664
連結業務純益	38,542	△4,013	34,528	△18,382	921,055

(注) 1. 損失または減益の場合には、金額頭部に△を付しております。

2. 連結業務純益＝三井住友銀行業務純益＋他の連結会社の経常利益(臨時要因調整後)＋持分法適用会社経常利益×持分割合－内部取引(配当等)

3. その他損益＝連結子会社の営業外損益等＋持分法適用会社経常利益×持分割合等

4. 日興コーディアル証券の連結業務純益の欄には、営業利益を示しており、営業外損益は「証券業」のその他に含めております。

5. その他事業等には、各セグメント間の内部取引として消去すべきものを含めております。

(4) 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	平成22年度
連結業務純益	921,055
三井住友銀行の不良債権処理額	△95,324
三井住友銀行の株式等損益	△87,285
三井住友銀行の退職給付会計未認識債務償却	△38,019
報告セグメント対象外の連結子会社経常利益	65,062
報告セグメント対象外ののれん償却額	△11,024
持分法適用会社損益調整	△9,126
その他	5,871
連結損益計算書の経常利益	751,208

- (注) 1. 損失または減益の場合には、金額頭に△を付しております。
 2. 不良債権処理額＝貸倒引当金繰入額(除く一般貸倒引当金換算差)＋貸出金償却＋貸出債権売却損等
 3. 株式等損益＝株式等売却益－株式等売却損－株式等償却
 4. 持分法適用会社損益調整＝持分法適用会社当期純利益×持分割合－持分法適用会社経常利益×持分割合

(追加情報)

当連結会計年度から「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

2. 関連情報

(1) サービスごとの情報

(単位：百万円)

	平成22年度			
	銀行業	証券業	その他 事業	合計
外部顧客に対する経常収益	2,350,106	217,379	143,894	2,711,380

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

(2) 地域ごとの情報

① 経常収益

(単位：百万円)

平成22年度				
日本	米州	欧州・中近東	アジア・ オセアニア	合計
2,336,021	140,798	85,702	148,857	2,711,380

- (注) 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。
 2. 当行(海外店を除く)及び国内連結子会社の取引に係る経常収益は「日本」に分類しております。また、当行の海外店及び在外連結子会社の取引に係る経常収益は、海外店及び各社の所在地を基礎とし、地理的な近接度等を考慮の上、「米州」「欧州・中近東」「アジア・オセアニア」に分類しております。
 3. 「米州」にはアメリカ合衆国、ブラジル連邦共和国、カナダ等が、「欧州・中近東」には英国、ドイツ連邦共和国、フランス共和国等が、「アジア・オセアニア」には中華人民共和国、シンガポール共和国、オーストラリア連邦等が属しております。

② 有形固定資産

(単位：百万円)

平成22年度				
日本	米州	欧州・中近東	アジア・ オセアニア	合計
812,849	8,593	3,840	3,415	828,698

(3) 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(単位：百万円)

	平成22年度			
	銀行業	証券業	その他 事業	合計
減損損失	4,739	306	225	5,272

4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

(単位：百万円)

	平成22年度			
	銀行業	証券業	その他 事業	合計
当期償却額	489	9,240	2,525	12,256
当期末残高	9,221	174,304	—	183,526

5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

記載すべき重要なものはありません。

6. 報告セグメントごとの与信関係費用に関する情報

(単位：百万円)

	平成22年度			
	銀行業	証券業	その他 事業等	合計
与信関係費用	144,601	△23	15,200	159,778

- (注) 1. 与信関係費用＝貸倒引当金繰入額＋貸出金償却＋貸出債権売却損等－償却債権取立益
 2. その他事業等には、各セグメント間の内部取引として消去すべきものを含めております。

[参考]

セグメント情報

(1) 事業の種類別セグメント情報

平成23年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	平成23年度					
	銀行業	証券業	その他事業	計	消去又は全社	連結
I 経常収益						
(1)外部顧客に対する経常収益	2,264,270	237,172	186,468	2,687,911	—	2,687,911
(2)セグメント間の内部経常収益	42,204	5,434	172,215	219,854	(219,854)	—
計	2,306,474	242,607	358,683	2,907,766	(219,854)	2,687,911
経常費用	1,543,973	209,127	324,434	2,077,535	(247,542)	1,829,992
経常利益	762,501	33,480	34,249	830,230	27,688	857,919
II 資産、減価償却費、減損損失及び資本的支出						
資産	127,772,373	8,244,359	6,182,325	142,199,058	(3,947,456)	138,251,602
減価償却費	85,858	3,392	13,714	102,965	—	102,965
減損損失	3,264	118	104	3,488	—	3,488
資本的支出	122,279	13,748	12,996	149,024	—	149,024

(注) 1. 事業区分は内部管理上採用している区分によっております。また、一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。

2. 各事業の主な内容

- (1)銀行業 銀行業
- (2)証券業 証券業
- (3)その他事業 リース、クレジットカード、消費者金融、システム開発・情報処理、ベンチャーキャピタル業

平成22年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

(単位：百万円)

	平成22年度					
	銀行業	証券業	その他事業	計	消去又は全社	連結
I 経常収益						
(1)外部顧客に対する経常収益	2,350,106	217,379	143,894	2,711,380	—	2,711,380
(2)セグメント間の内部経常収益	26,258	2,239	164,873	193,371	(193,371)	—
計	2,376,364	219,618	308,767	2,904,751	(193,371)	2,711,380
経常費用	1,705,942	193,589	288,897	2,188,429	(228,257)	1,960,171
経常利益	670,422	26,029	19,870	716,322	34,886	751,208
II 資産、減価償却費、減損損失及び資本的支出						
資産	123,605,819	8,037,309	4,143,694	135,786,823	(3,071,149)	132,715,674
減価償却費	81,279	4,961	12,701	98,943	—	98,943
減損損失	4,739	306	225	5,272	—	5,272
資本的支出	117,359	12,391	11,697	141,449	—	141,449

(注) 1. 事業区分は内部管理上採用している区分によっております。また、一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。

2. 各事業の主な内容

- (1)銀行業 銀行業
- (2)証券業 証券業
- (3)その他事業 リース、クレジットカード、投融資、融資、ベンチャーキャピタル、システム開発・情報処理業

(2) 所在地別セグメント情報

平成23年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	平成23年度						
	日本	米州	欧州・中近東	アジア・オセアニア	計	消去又は全社	連結
I 経常収益							
(1) 外部顧客に対する経常収益	2,223,790	146,872	115,788	201,460	2,687,911	—	2,687,911
(2) セグメント間の内部経常収益	27,118	81,843	3,790	2,054	114,806	(114,806)	—
計	2,250,909	228,716	119,578	203,514	2,802,718	(114,806)	2,687,911
経常費用	1,664,602	71,614	85,331	123,125	1,944,674	(114,682)	1,829,992
経常利益	586,306	157,101	34,246	80,388	858,043	(124)	857,919
II 資産	118,125,312	9,296,084	5,610,292	7,618,993	140,650,682	(2,399,080)	138,251,602

(注) 1. 当行の本支店及び連結子会社について、地理的近接度、経済活動の類似性、事業活動の相互関連性等を考慮して国内と国又は地域ごとに区分の上、一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。

2. 「米州」にはアメリカ合衆国、ブラジル連邦共和国、カナダ等が、「欧州・中近東」には英国、ドイツ連邦共和国、フランス共和国等が、「アジア・オセアニア」には中華人民共和国、シンガポール共和国、オーストラリア連邦等が属しております。

平成22年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

（単位：百万円）

	平成22年度						
	日本	米州	欧州・中近東	アジア・オセアニア	計	消去又は全社	連結
I 経常収益							
(1) 外部顧客に対する経常収益	2,336,021	140,798	85,702	148,857	2,711,380	—	2,711,380
(2) セグメント間の内部経常収益	19,928	80,363	2,324	1,692	104,309	(104,309)	—
計	2,355,950	221,162	88,026	150,549	2,815,689	(104,309)	2,711,380
経常費用	1,829,474	74,509	62,083	97,449	2,063,517	(103,345)	1,960,171
経常利益	526,476	146,652	25,943	53,100	752,172	(963)	751,208
II 資産	115,710,826	8,644,189	4,391,962	6,513,227	135,260,206	(2,544,532)	132,715,674

(注) 1. 当行の本支店及び連結子会社について、地理的近接度、経済活動の類似性、事業活動の相互関連性等を考慮して国内と国又は地域ごとに区分の上、一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。

2. 「米州」にはアメリカ合衆国、ブラジル連邦共和国、カナダ等が、「欧州・中近東」には英国、ドイツ連邦共和国、フランス共和国等が、「アジア・オセアニア」には中華人民共和国、シンガポール共和国、オーストラリア連邦等が属しております。

(3) 海外経常収益

（単位：百万円）

	平成22年度	平成23年度
	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
海外経常収益	375,358	464,120
連結経常収益	2,711,380	2,687,911
海外経常収益の連結経常収益に占める割合	13.8%	17.3%

(注) 1. 一般企業の海外売上高に代えて、海外経常収益を記載しております。

2. 海外経常収益は、当行の海外店取引、並びに在外連結子会社の取引に係る経常収益(ただし、連結会社間の内部経常収益を除く)で、こうした膨大な取引を相手先別に区分していないため、国又は地域毎のセグメント情報は記載しておりません。